Year Book 2021

九州から世界へ!!
イノベーションの架け橋をつなぐ!!

Kyushu Open Innovation Center

KOIC
KYUSHU OPEN INNOVATION CENTER

一般財団法人 九州オープン
イノベーションセンター

Year Book 2021 の発刊に寄せて

（一財）九州オープンイノベーションセンター（KOIC）
会長　瓜　生　　道　明

昨年度を振り返ると、新型コロナウイルス感染症の猛威は依然として続き、人々の生活様式や仕事の仕方も変容し社会経済は大きな影響を受けました。このような中にあって、KOIC の事業も大きな影響を受けましたが、「コロナ禍」による事業の開催延期やオンラインによる開催、「ウィズコロナ」を意識し、感染症防止対策を講じながら入場者数を制限したハイブリッド開催など、状況に応じて効果的な事業展開を進めて参りました。

まず、経済社会さらには生活様式を変えつつある DX（デジタルトランスフォーメーション）に着目し、経営者層の理解増進とネットワークの形成を目的とした九州デジタル経営塾のキックオフを皮切りに、各地で初めて参加費を伴う経営塾を開催しました。また、DX 研究会では、九州オープン DX アカデミーを開設し、DX に挑戦する企業の実践面の支援と人材育成を行う有料型の事業を展開しました。このほか、ネクストリーダー養成塾を実施し、次代を担う人材育成につなげました。また、異業種との交流を通じて、オープンイノベーションに必要な発想力を身につける異業種交流会も実施しました。世界のオープンイノベーション拠点との交流事業では、昨年に引続き、イスラエルに焦点を当てて、イスラエルイノベーションセミナーを開催しました。また、イスラエルにミッションを派遣する予定でしたが、コロナ感染拡大を受けて、WEB で現地政府や企業と九州などの企業を結んで、商談会を含め、交流を深めました。

大学発ベンチャー支援事業では、九州の大学における研究シーズの事業化支援に加え、企業ニーズと大学シーズのマッチングを通じて企業課題の解決を支援しました。

九州企業の技術開発や事業化については、職員とコーディネータが一体となって、案件の発掘から様々なマッチング事業を行うとともに産学連携型の技術開発事業の発掘と効率的な補助事業管理を行いました。また、九州内外企業のシーズ・ニーズ等を Web 情報サイトに掲載するとともに大手企業による技術ニーズ説明会を開催し、新規取引等の支援を行いました。

このほか、九州の戦略産業の振興については、環境エネルギー、ヘルスケア、半導体・エレクトロニクス、食品産業等のそれぞれの分野において、デジタル技術等を活用した事業や組織の再構築、新規事業への変革を進める DX に着目した事業を推進しました。

これからも KOIC は、「課題解決先進地域　九州」を実現すべく、オープンイノベーションの手法により、産学官民連携の様々な取り組みを推進し、地域の皆様からの信頼と期待に応えることのできる広域的な産業支援機関としての役割を果たして参ります。皆様の一層のご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

目　次

Year Book2021 の発刊に寄せて（会長挨拶）
Ⅰ．運営概要
Ⅱ．設立趣旨
Ⅲ．沿革

Ⅳ．事業概要 …… 1
１．振興支援事業 …… 1
（１）オープンイノベーションによる新事業創出支援事業 …… 1
①世界のオープンイノベーション拠点との交流事 …… 1
②九州デジタルトランスフォメーション（DX）研究会 …… 3
③ SDGs 経営実践研究会 …… 5
（２）九州・大学発ベンチャー育成支援事業 …… 6
（３）九州・大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト支援事業 …… 8
（４）DX 推進事業（九州 IoT コミュニティ事業） …… 9
（５）九州の戦略産業の振興 …… 12
①環境・エネルギー分野（K-RIP 事業） …… 12
②医療機器・ヘルスケア分野（HAMIQ 事業）…… 13
③半導体・エレクトロニクス分野（SIIQ 事業）…… 15
④食品製造業のデジタル化推進事業 …… 16

２．産業技術振興事業 …… 17
（１）オープンイノベーションによる産業技術の振興 …… 17
①九州オープンイノベーション情報サイト事業 …… 17
オープンイノベーション・ソリューション・サイトの運営 …… 17
ニーズ・シーズに関するアンケート調査 …… 17
オープンイノベーションセミナー …… 18
②九州イノベーション創出戦略会議（KICC） …… 18
通常総会・特別講演会の開催 …… 19
KICC ホームページの更新
（開放機器情報、KICC 構成機関コーディネータ・マネージャー） …… 19
KICC 構成機関との意見交換 …… 20
大手企業の技術ニーズ説明会 …… 20

（2）九州 Earth 戦略に基づくイノベーション創出事業 …… 20
①委員会、会議等による事業統括・管理 …… 21
②コーディネータによる企業支援 …… 22
コーディネータ活動
（技術ニーズの発掘、シーズとのマッチング、ブラッシュアップ研究会）…… 22
機械工業振興チャレンジ研究調査（公募） …… 22
③セミナー・ニーズ説明会・成果報告会・展示会 …… 23
（3）戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン） …… 24
（4）他機関との連携事業 …… 25

3． 普及啓発事業 …… 25
（1）九州異業種交流会 …… 25
（2）九州経済を考える懇談会 …… 27
（3）地域技術交流事業 …… 27
九州・沖縄地区国立大学法人産学官連携関連センター長等会議 …… 27

4． 人材育成事業 …… 28
（1）九州デジタル経営塾 …… 28
（2）ネクストリーダー養成塾 …… 31
（3）若手研究者海外研究交流支援事業 …… 34
（4）女性活躍促進事業 …… 34

5．情報提供事業 …… 34
（1）WEB サイト等による情報発信 …… 34
（2）活字媒体による情報発信 …… 35

6．収益事業 …… 36
（1）成功報酬型コーディネータ事業 …… 36
（2）産業技術事業化支援事業 …… 38

産業クラスター関連資料
2021 年度の出来事（年表）

Ⅰ．運営概要

1．　名　称　　一般財団法人 九州オープンイノベーションセンター
　　英文表記：Kyushu Open Innovation Center　略称：KOIC

2．　設 立　　令和２年４月１日

3．　設 立 目 的

　九州地域において、オープンイノベーション等による産業技術の振興及び新技術の創出に関する諸事業を総合的かつ効率的に推進することにより、九州地域の活性化を図り、もって我が国経済の健全な発展に寄与することを目的としています。

4．　事業内容

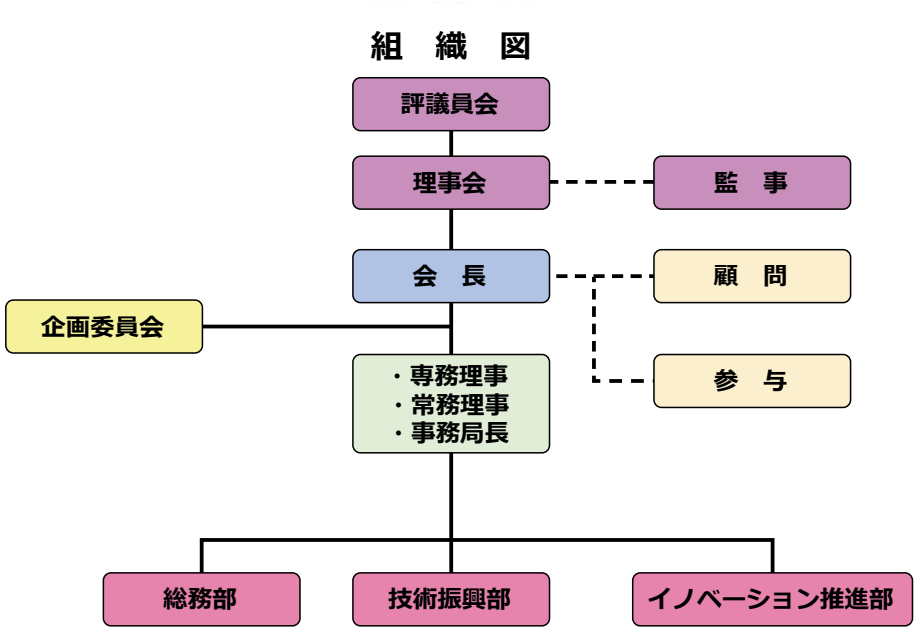
　イノベーション等に関する支援
　産業技術の振興に関する支援
　新事業の創出に関する支援
　その他この法人の目的を達するための必要な事業

5．　所 在 地; 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東２丁目 13 番 24 号
　　電 話　092(411)7391（代表）　ＦＡＸ　0092(472)6609
　　Web Site: https://www.koic.or.jp

6．　敷地及び建物

　敷　　地　　敷地面積　263.82 ㎡
　建　　物　　建築面積　199.80 ㎡　　延床面積　603.76 ㎡
　　鉄骨造　地上３階

7．　組織



2022.4.1 日現在

Ⅱ．設立趣旨

一般財団法人九州産業技術センターは、1985(昭和 60)年 6 月に設立以来、産業技術の普及、啓発等に関する諸事業を総合的、かつ効率的に推進することにより、九州地域における産業技術の振興を図ることで、技術の高度化や新産業技術の発展に貢献してきた。

一方、1987(昭和 62)年 12 月に設立された一般財団法人九州地域産業活性化センターは、九州地域における産業の活性化に関するグランドデザインの調査研究及び大学発ベンチャー、IoT 事業、女性活躍事業等の推進による新事業の創出を通じ、九州の産業の活性化に貢献してきた。

しかし、近時の経済社会の変化は、両センターのこれまでの事業では解決できないほどの大きな変化に直面している。

特に、市場の成熟化と多様性に加え、あらゆるモノがインターネットに繋がり、情報がやりとりされ、その情報が価値を生み出すデジタル化とグローバル化の進展を背景として、技術革新のスピードが早まっている。この様な中で、カスタマイゼーション、シェアリングビジネス、データエコノミーなどの新事業やビジネスが発生している。

また、人口減少と少子高齢化等の社会的な課題を解決するための生産性向上、人材の育成、新製品・サービスの開発なども急務となっている。

この様な経済社会の大きな変化に対し、単独の企業の経営資源のみでの対応には限界があり、外部の経営資源と組み合わせて、時代のニーズや課題に即応した新商品やサービス及び新たな価値を創出するオープンイノベーションが期待されている。

この様な期待に応えるため、オープンイノベーションの視点から、両財団の技術開発支援機能や産学連携による新事業創出機能、グランドデザインの調査機能や新事業創出機能を統合し、新たにオープンイノベーション機能を追加し、国内外の市場動向の把握から技術開発・産学連携・人材育成まで一貫した事業化支援機能を有した新組織(プラットフォーム)を設立する。

Ⅲ.沿革

・平成 30 (2018)年 10 月　九州オープンイノベーションセンター構想研究会(仮称)設置
・平成 30 (2018)年 11 月　第 1 回九州オープンイノベーションセンター構想研究会開催
　(議長;九州電力㈱代表取締役会長　瓜生　道明)
・平成 31 (2019)年 2 月　第 2 回九州オープンイノベーションセンター構想研究会開催
・平成 31 (2019)年 4 月　第 3 回九州オープンイノベーションセンター構想研究会開催
・平成 31 (2019)年 4 月　合併合意覚書締結
　(一般財団法人九州産業技術センターを存続法人、一般財団法人九州地域産業活性化センターを消滅法人として吸収合併する)
・令和 2(2020)年 4 月　名称変更登記、合併届出提出(内閣府)
　九州オープンイノベーションセンター開所式開催
・令和 2(2020)年 9 月　合併届出承認(内閣府)

Ⅳ.事業概要

1. 振興支援事業

(1)オープンイノベーションによる新事業創出支援事業

① 世界のオープンイノベーション拠点との交流事業

イスラエルはスタートアップ大国として注目され、オープンイノベーションにより、先進のベンチャーが次々と誕生している。

本年度は、JETRO と連携し「イスラエルイノベーションセミナー」を開催、イスラエルのイノベーションの概況やイスラエル企業との連携・協業について研究した。実施後のアンケートでは、全員が「役に立った」「まあ役に立った」と回答し、事業を興すイスラエルに対する高い関心があることが判明した。

また、本年度は実際にミッションを現地イスラエルに派遣する予定であったが、新型コロナの感染拡大の影響もあり、駐日イスラエル大使館経済部の協力を得て「イスラエルイノベーション視察ＷＥＢミッション」を実施し、ライブで現地とオンラインで結んで、イスラエル政府の講演、企業との交流・商談会・マッチングなどのバーチャルミッションを通じ、新事業展開などを支援した。

■イスラエルイノベーションセミナー概要

開　催　日	内　　容
10 月 22 日（金） 参加者：122 名	1　開会挨拶 （一財）九州オープンイノベーションセンター　会長　瓜生　道明 2　講演 「イスラエルのイノベーション最新概況とジェトロの支援策」 日本貿易振興機構（ジェトロ）　企画部 海外地域戦略主幹中東担当 西浦 克　氏 「日本企業がイスラエル企業と協業するにあたっての留意点」 ジャコーレ株式会社　代表取締役 CEO　平戸　慎太郎　氏 「イスラエルビジネスは、誰にでもチャンスがある理由」 株式会社ジェイテック　代表取締役社長　阿部　清治　氏 「イスラエルベンチャーとの協業、最先端テックハブとしてみた同国の魅力と協業の課題」 PicoCELA 株式会社　代表取締役 CEO　古川 浩　氏 3　事務局からのお知らせ 「イスラエルイノベーション視察ＷＥＢミッション」他

■イスラエルイノベーション視察ＷＥＢミッション概要

開　催　日	実施概要
2 月 21 日（月） 参加者：83 名	開会挨拶：(一財)九州ｵｰﾌﾟﾝｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ会長　瓜生　道明（団長） 共催・来賓ご挨拶：駐日ｲｽﾗｴﾙ大使館経済部　経済公使　Daniel Kolbar 氏 プログラム： 「世界からｲｽﾗｴﾙへの投資状況などについて」　ｲｽﾗｴﾙ経済産業省 「ｲｽﾗｴﾙのｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝの動向などについて」　ｲｽﾗｴﾙｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ庁 「会員企業のプレゼン及び質疑・交流など」ｲｽﾗｴﾙ日本商工会議所
2 月 22 日（火） 参加者：68 名	「イスラエル事業の概要」イスラエル日系企業 「実機デモやオフィス紹介、ショートプレゼンテ―ション等」 イスラエル企業プレゼン・オフィス訪問等（５～６社） 全体講評・今後のイスラエルビジネスなど 駐日イスラエル大使館経済部　商務官　樋口　由紀　氏 閉会：全体講評など
2 月 22 日（火） 参加企業：延べ 12 社	個別商談会（登壇イスラエル企業とのビジネスマッチング）
2 月 28 日（月） 参加企業：4 社	個別商談会（登壇イスラエル企業とのビジネスマッチング）

② 九州デジタルトランスフォメーション（DX）研究会

昨年度開講した本研究会（座長：村上九大名誉教授）の一環として、㈱ＤＸパートナーズ（以下ＤＸＰ）とデジタル変革（DX）に挑戦する企業の実践面での支援および DX 人材の育成を目的とした「九州オープン DX アカデミー（以下、DX アカデミー）」を開設し、その DX アカデミー内に「第１期 DX ゼミルーム」を開設した。

DX ゼミルームとは、DX に挑戦中の企業（ＤＸチャレンジャー）を対象に「新規事業 by DX」を目標に、ＤＸチャレンジャーとＤＸアドバイザー（＝ＤＸＰ）とがアイディア出しとコメント返しの基本となる過程を繰り返し実践し、DX 実装モデルを具体的に構築していこうとするもので、その模様をオンラインで視聴して学習するＤＸゼミルームメイトを有料で募集した。

DX チャレンジャーと DX ゼミルームメイトは相互にオンライン上で交流することができ、このゼミを通じて知り合った参加者同士が共同事業を立上げるなど、オープンイノベーションの一助となることを目指して開講した。

九州オープン DX アカデミー概要

ＤＸチャレンジャー	株式会社アイ・ビー・ビー	エコー電子工業株式会社
ＤＸゼミルームメイト	１８名	２１名
ゼミ実施回数・時間	・12/7～2/1 の毎火曜日に合計８回 ・各回ともに、事前課題に取り組んで頂いた上で、２時間/回のゼミを実施。	・12/9～2/2 の毎水曜日に合計８回 ・各回ともに、事前課題に取り組んで頂いた上で、２時間/回のゼミを実施。
報告会　１３４名参加	令和４年２月１４日（月）13:30-15:00	令和４年２月１４日（月）13:30-15:00

③ SDGs 経営実践研究会

地域企業による SDGs 経営導入を支援し、ビジネスチャンスの獲得と企業価値の向上および持続的な発展を目指し、「九州 SDGs 経営推進フォーラム」(事務局:九州経済産業局)と連携し、九州地域経済の中心的担い手となる企業 10 社による「SDGs 経営実践研究会」を開催した。

専門家による導入支援アドバイス・プロセスの検証を行うとともに、導入のモデル事例として、具体的な情報を発信し、他企業への波及・展開を図り、その活動成果を SDG s シンポジウムにて発表した。

■SDGs 経営実践研究会概要（全３回）

回数	開催日	内　容
第１回	8 月 4 日 (水)	SDGs 経営導入のためのプレゼンテーション及び意見交換会
第２回	10 月 6 日 (水)	課題取組の結果報告、意見交換、専門家アドバイス
第３回	11 月 30 日 (火)	課題取組の結果報告、意見交換、専門家アドバイス
発表会	2 月 24 日（木）	上記 3 回の取り組みの発表会

また、地域の持続可能性につながる新たな取り組みやビジネスモデル構築を後押しするため、「地域課題解決ソーシャルビジネス事業」として地域・社会課題解決に向けた実装事業を支援した※。

※今年度は、福岡地域戦略会議(FDC)が推進する事業より１件支援

■SDGs 地域課題解決ソーシャルビジネス事業概要

事業名	概　要	実施団体／所在地
「自分事都市」、飯塚の実現に向けた社会実装事業	飯塚市で推進中である「市民と協働のまちづくり」において直面している市民参画不足という課題に対し、他人事から自分事への認識移行による市民の行動変容を促すことにより「自分事都市」飯塚を目指す。	地域政策デザインスクール 飯塚市チーム

(2)九州・大学発ベンチャー育成支援事業

大学発ベンチャー企業創出のため、平成 29 年に「九州・大学発ベンチャー振興会議※」を設立し、九州、沖縄の大学、産業界、ベンチャーキャピタルをつなぐプラットフォームの役割を事務局として果たしている。また、ギャップ資金やアントレプレナーシップ教育等の提供を行い、大学シーズからベンチャー企業を創出するエコシステムの構築を図ってきた。

今年度の主な活動は、８月３日(火)に実務担当者の会議である「第 6 回九州・大学発ベンチャー振興実践会議」を開催し、１３の大学から２４件のシーズが提出された。また、昨年度から始めた企業のニーズから大学シーズを探索しマッチングさせる事業については、１０の企業から２４件

のニーズが提出された。

その後、企業からのギャップ資金提供の調整を行い、今年度は２３件の大学シーズに対し、企業、ＫＯＩＣが拠出した２，０５０万円を提供した。また、２４件の企業ニーズに対し２６件の大学シーズが提出され、順次マッチングを行い８件が協議継続中である。なお、昨年度のマッチングについては、２件の共同研究が開始された。

２月２日(水)に代表者の会議である「第６回九州・大学発ベンチャー振興会議」を開催し、今年度の活動報告を行い、来年度も同様の活動を行うことを承認された。

※九州・大学発ベンチャー振興会議：１３大学、１１企業、１０金融機関、１ＶＣ、６経済団体で構成（2022 年３月末時点）

■振興会議にシーズを提出後、設立されたベンチャー企業（14 社）

	大学	研究開発の名称	提出年度	設立企業名	企業設立時期
1	九州大学	九大カイコバイオリソースと昆虫工場を用いた難発現性タンパク質の大量生産システム	H29年度	KAICO㈱	H30年4月設立
2	福岡大学	不妊症における治癒不能な子宮内膜着床不全の治療法の開発	H29年度	㈱キュベレ	H30年８月設立
3	九州大学	接触圧センサー体ウェアラブル血流計血流計の開発	H29年度	Palmens㈱	H31年3月設立
4	宮崎大学	宮崎県沿岸域における循環型サクラマス養殖生産事業の定着化	H30年度	㈱Smolt	H31年4月設立
5	九州工業大学	柔軟膜で包み込んで対象物を把持する新しいロボットハンドの開発	H29年度	KiQ Robotics㈱	H31年4月設立
6	宮崎大学	高機能性ヒト抗体開発シーズ	H30年度	MabGenesis ㈱	R元年6月設立
7	佐賀大学	座圧軽減装置"フワット"の販売事業	R元年度	㈱山城機巧	R元年8月設立
8	宮崎大学	増殖困難な果樹台木苗の作成	R元年度	㈱RIFNUM	R元年10月設立
9	九州大学	生態学を体験して学ぶための教育支援アプリケーション開発	R元年度	㈱サイエンスグルーヴ	R元年10月設立
10	九州工業大学	介護系行動認識システム及び行動認識技術の汎用化プラットフォームの開発	H30年度	(合)AUTOCARE	R２年２月設立
11	九州大学	音声明瞭化技術	R元年度	サウンド㈱	R２年４月設立
12	宮崎大学	楽しみながら「口コモ」を改善するロボットシステム	R２年度	LOCOBOT㈱	R２年７月設立
13	九州大学	燃焼後排ガスからＣＯ２を低コストに分離し貯留、供給する装置	R２年度	㈱日本炭素循環ラボ	R２年１２月設立
14	琉球大学	海藻養殖における夏場の海水冷却システムの開発	R元年度	㈱リテックフロー	R元年11月設立

九州・大学発ベンチャー振興会議　共同代表

一般社団法人九州経済連合会　会長　倉富　純男　氏　　国立大学法人九州大学　総長　石橋　達朗　氏

(3)九州・大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト支援事業

ベンチャー企業創出を目的に、一般社団法人九州ニュービジネス協議会と連携して、九州地域の大学に眠るシーズの発掘を行い、大学生、高専生を中心とした若者の創造力とチャレンジ精神を養うための事業計画書（ビジネスプラン）の作成支援、プレゼンテーション能力を養成する場を提供した。今年度は、九州・沖縄８県の２０大学（大学院含む）、２高専の合計２２校から合計５４プランの応募があった。

第１次審査（書類審査）で２７プランに絞り込み、第２次審査会では、ベンチャーキャピタリスト、地場企業のオープンイノベーション担当者、専門家(公認会計士、弁理士等)で構成される専門委員会が、２７プランの「３分動画」を視聴し審査を行い、コンテスト出場の１０プランを決定した。

１２月１８日(土)に、一般公開で最終プレゼンテーション審査(コンテスト)を開催(プレゼン８分、質疑応答９分)した。専門審査委員会による審議により「グランプリ」等各賞を決定した。

「グランプリ（１位）」受賞者は、「キャンパスベンチャーグランプリ全国大会」に出場し、「ＮＩＣＴ賞」受賞者は、「企業家甲子園（全国大会）」に出場する。

平成２９年以降、本コンテストを契機として１５プランが起業化、または起業化に向けて進捗している。

⇐詳細はこちら

(4) DX 推進事業（九州ＩｏＴコミュニティ事業）

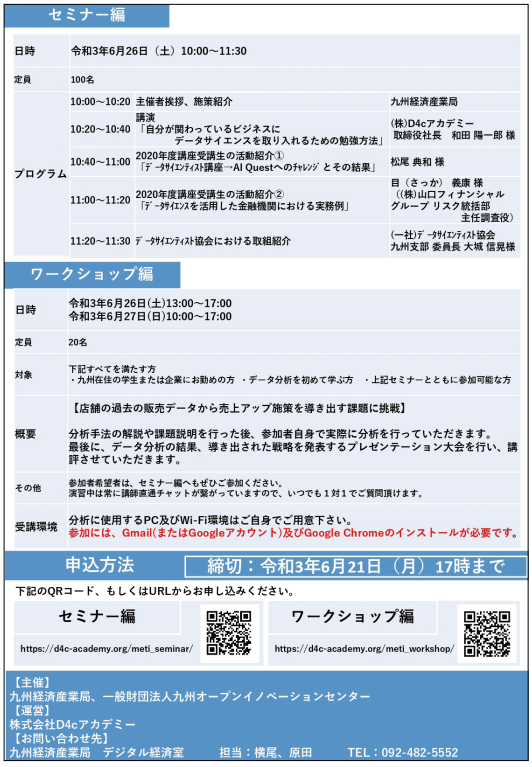
産学官組織の九州 IoT コミュニティ（事務局：九州経済産業局）と連携して DX 推進事業を行い、データサイエンティスト講座を２回開催した。

講座内のワークショップでは、実際のデータサイエンティストの事例を学ぶため、参加者に課題を与え、課題についてシミュレーション、プレゼンを行った後、講師が講評し、優秀者２名を表彰した。

参加者へのアンケート調査の結果では、８割以上が「参考になった。」と回答し、「データサイエンティストとは何か、何をしているかが良くわかった。」などの意見や、「同じデータでも捉え方、分析方法が違い、とても刺激になった。」「データ分析の進め方が理解できた。」などの意見が寄せられる等、良好な評価を得ることができた。

このほか、データサイエンティスト派遣実証事業および相談会やデータ利活用に向けた施策説明会＆相談会を実施した。

開　催　日	実施概要
5 月 20 日(木) 参加者：125 名	IoT コミュニティ活動報告会（オンライン開催） ・会長講演「さあ、一緒に IoT 版エコシステムを構築しよう！～DX への第一歩～」 九州大学システム大学院情報科学研究院　教授 井上 弘士 氏 ・講演「中小企業だから出来る！身の丈デジタルトランスフォーメーション事例」 ・「ベンダー事業紹介」①～③
6 月 26 日(土) 参加者：89 名	第 1 回データサイエンティスト講座（オンライン開催） 【セミナー編】 ・講演「自分が関わっているビジネスにデータサイエンスを取り入れるための勉強方法」 講師：㈱D4c アカデミー　取締役社長　和田　陽一郎　氏 ・活動紹介①、②
6 月 26 日(土) 6 月 27 日(日) 参加者：15 組 22 名	【販売戦略立案チャレンジワークショップ編】 ・店舗の過去の販売データから売上アップ施策を導き出す課題に挑戦！
9 月 25 日(土) 参加者：55 名	第 2 回データサイエンティスト講座（オンライン開催） 【セミナー編】 ・講演「データサイエンスで企業改革！～課題設定が DX 成功の鍵を握る～」 講師：AGC㈱経営企画本部 DX 推進部デジタルソリューショングループマネージャー 滋賀大学データサイエンス学部インダストリアルアドバイザー　小野　義之　氏
9 月 25 日(土) 9 月 26 日(日) 参加者：18 名	【ネットショップ運営チャレンジワークショップ編】 ・ネットショップ運営にデータサイエンスを適用する
令和 3 年 12 月～ 令和 4 年 2 月 28 日 まで	データサイエンティスト派遣実証事業（原則、オンライン） ・派遣先企業：株式会社タケマン ・データサイエンティスト：Deel　新川　裕也　氏
令和 4 年 2 月 2 1 日 参加者第一部 オンライン　50 名 現地 3 名 第二部 企業数 3 社、相談者 8 名	データ利活用に向けた施策説明会＆相談会（共催：大分県） 【第一部　大分市内、オンラインのハイブリッド】 ・国及び自治体のデータ利活用推進関連施策の活用に向けた周知と活用企業の発掘 【第二部　大分市内】 ・データサイエンティストとの相談会 ※第 2 回を鹿児島県と 5 月 20 日（金）に開催



経済産業省
九州経済産業局

オンライン開催　参加費 無料
Google Meet等使用

データサイエンティスト講座

～ビジネスでの「課題設定」と「成果」、
もっと突き詰めてみませんか？～

日程　令和3年　9月25日（土）26日（日）

セミナー・ワークショップの二本立て！

経験と勘に頼りがちな"課題設定"、
「原因は？なぜそうなるのか？」…
データサイエンスを活用することで新たに
見える世界をご紹介します。

またワークショップでは、
「ネットショップ運営」をテーマに、
簡単なデータ分析と事業提案にチャレンジいただき、データ利活用の必要性や効果を体感いただきます。

文系・理系不問！
ぜひご参加ください！

ワークショップ講師 Profile

・AGC株式会社　経営企画本部 DX推進部
　デジタルソリューショングループ マネージャー
・滋賀大学　データサイエンス学部
　インダストリアルアドバイザー

小野　義之氏

1992年、大手精密機器メーカーに入社。新製品・新事業の企画開発を経て、データ分析専門組織に異動。2008年、ビジネス・ブレークスルー大学院大学にてMBAを取得（最優秀成績賞受賞）。
2017年より現職。DX推進部のマネージャーとして、AGCグループ全体のデータ活用を推進。
データ活用の成功には適切なビジネス課題の設定が不可欠とし、そのための手法「因果連鎖分析」を考案、後進の育成や、社内外への普及・啓蒙活動にも力を入れる。
2020年、滋賀大学データサイエンス学部インダストリアル・アドバイザーに就任、因果連鎖分析の講義を担当。

セミナー講師 Profile

・株式会社D4cアカデミー 取締役社長
・株式会社データフォーシーズ執行役員
・九州大学大学院システム情報科学府 客員准教授

和田　陽一郎氏

東京工業大学大学院博士課程を経て、2008年株式会社データフォーシーズ入社。同年、博士号取得。入社後は、データサイエンティストとしてデータ分析業務に従事し、データ分析のプロジェクトマネージャーとして活躍。2018年、データサイエンス教育を専門に行う子会社・株式会社D4cアカデミー設立に伴い、取締役社長兼学長に就任。

セミナー編

日時	令和3年9月25日（土）10:00～11:20		
定員	100名		
プログラム	10:00～10:20	主催者挨拶、施策紹介	九州経済産業局
	10:20～11:20	講演 「データサイエンスで企業変革！ ～課題設定がDX成功の鍵を握る～」（仮）	AGC株式会社 経営企画本部 DX推進部 デジタルソリューショングループ マネージャー　/ 滋賀大学 データサイエンス学部 インダストリアルアドバイザー 小野 義之様

ワークショップ編

日時	令和3年9月25日(土)13:00～17:00　、令和3年9月26日(日)10:00～17:00
定員	20名
対象	下記すべてを満たす方 ・九州在住の学生または企業にお勤めの方　・データ分析を初めて学ぶ方 ・上記セミナーとともに参加可能な方
概要	**【ネットショップ運営にデータサイエンスを適用する】** 季節の食品を販売しているネットショップ運営にデータサイエンスを適用するケーススタディにチャレンジします。 ワークショップでは、講師より課題設定方法や分析手法についてレクチャーの後、参加者ご自身でショップの現状とあるべき姿を考え、問題発見、課題設定を行ったうえで、実際に分析を行っていただきます。最後にはプレゼンテーション大会を行い、審査のうえ優秀者を発表します。 講師：株式会社D4cアカデミー　取締役社長　和田陽一郎氏
その他	参加者希望者は、セミナー編へもぜひご参加ください。 演習中は常に講師直通チャットが繋がっていますので、いつでも１対１でご質問頂けます。
受講環境	分析に使用するPC及びWi-Fi環境はご自身でご用意下さい。 参加には、Gmail(またはGoogleアカウント)及びGoogle Chromeのインストールが必要です。

申込方法　締切：令和3年9月22日（水）17時まで

下記のQRコード、もしくはURLからお申し込みください。
https://mm-enquete-cnt.meti.go.jp/form/pub/kyusyu-jyohoseisaku/ds
◆九州経済産業局HP＞イベント情報　からもアクセス可能です。

【個人情報の取扱い方針】
ご提供いただいた個人情報は、事務局（九州経済産業局、一般財団法人九州オープンイノベーションセンター、株式会社D4c アカデミー）及び講師が、本事業（令和３年度第２回データサイエンティスト講座）の運営においてのみ使用し、事務局においても保護について万全を期すとともに、ご本人の同意なしに事務局及び講師以外の第三者に開示、提供することはございません。なお、オンライン形式（Google Meet）では、入室時に設定した登録名が画面に表示されます。個人情報保護の観点から、本講座セミナー編当日は、公表可能な名称を設定してください。（ご参加いただくための入室用URLをお知らせする際にも、改めてご案内いたします。）

【主催】九州経済産業局、一般財団法人九州オープンイノベーションセンター
【運営】株式会社D4cアカデミー
【お問い合わせ先】経済産業省　九州経済産業局　デジタル経済室　　担当：横尾、原田
TEL：092-482-5552　　E-mail：kyushu-iot@meti.go.jp

経済産業省
九州経済産業局
一般財団法人 九州オープンイノベーションセンター

データ利活用に向けた 施策説明会＆相談会 in大分

～データ利活用のプロ！
「データサイエンティスト」に
気軽に相談してみませんか？～

参加費無料

日程　令和4年　2月21日（月）13：30～

データ利活用を進めたい企業向けに、
「活用いただける支援策のご紹介」、
「少人数での相談会」を開催します。

**マーケティングや品質管理に活用したいが、
どうデータを整理・分析すればいい？**
・・・という経営者、必見！

お気軽にご参加ください！

データ利活用による
DX（デジタル・トランスフォーメション）
の実現に向けて、九州でご活躍されている
データサイエンティストにご協力いただきます！

ワークスアイディ株式会社
DX事業統括本部
シニアデータサイエンティスト
福原　好隆氏

・"データ"を起点として、BIツールを使った可視化や統計解析、AI（機械学習、ディープラーニングなど）を駆使して顧客の課題解決と売り上げ増加やコスト削減の実現に向け、人材育成支援を含めて総合的にご支援中。特に福岡支店は同社データサイエンスセンターとして多数のデータサイエンティストが所属。
・九州地域では「製造設備の稼働時間改善と製品の品質維持活動分析」「通販会社の商品の発注予測の精度改善に関するアドバイス」等を実施。

DeeL　新川裕也氏

・インフラ、通信、小売、金融、WEBなど幅広い業種業態の分析・コンサル・機械学習モデル構築に従事。
・バックグラウンドは医療統計学で、経歴としてはTRIALホールディングスの(株)TRE（現：(株)Retail AI X）やLINE Fukuoka(株)に在籍していたこともあり、医療分野・小売分野、及びサービスのグロースハックは特に経験が多い。NOB DATA(株)では、クライアント企業様の分析チーム立上げの案件にも従事。
・G's アカデミー福岡ではデータサイエンスの講師も努めており教育に関しても対応可能。
・最近では、Googleのノーコードツール AppSheetを活用しながらDXを支援。

概要

日時	令和4年2月21日（月）13:30～14:30（第一部）、14:40～16:00（第二部） 【13:00開場予定】
定員（先着順）	第一部：100名（オンライン。Microsoft Teamsを活用）／ 10名（会場　※原則第二部への参加者のみとさせていただきます。） 第二部：10名（※コロナ感染拡大防止のため、会場収容率50%以内で設定。）
会場	【第二部参加者のみ】 サテライトキャンパス大分　講義室 ※ホルトホール大分（大分県大分市金池南1丁目5-1）内。JR大分駅から徒歩約２分。
プログラム	＜第一部：オンライン（Microsoft Teams）＞
	13:30~13:50　国のデータ利活用・DX関連施策の紹介　／　九州経済産業局 デジタル経済室
	13:50~14:10　大分県のDX関連の施策紹介　／　大分県　DX推進課
	14:10~14:30　九州地域でご活躍の データサイエンティストによる 事業・支援事例の紹介　／　①ワークスアイディ株式会社 ②DeeL
	休憩（10分）
	＜第二部：会場＞
	※テーマごとに参加企業４～５社ずつの小規模グループに分かれ、グループ単位で相談対応いたします。相談希望テーマを申込書に記載ください。 ※相談の際「どのようなデータを何ヶ月・何年分所有しているか」をご教示いただけると、より具体的に活用方法等を回答できるようになりますので、可能な範囲でご協力いただけますと幸いです。
	14:40~15:20　相談会①　／　データサイエンティストとの相談会 ・テーマ①：マーケティングへの活用 ・テーマ②：製造工程改善や品質維持への活用　／　＜相談対応する データサイエンティスト＞ ・ワークスアイディ株式会社 ・DeeL
	15:20~16:00　相談会②

申込方法　締切：令和4年2月16日（水）17時まで

下記事項を明記のうえメールでお申し込みください。後日配信URL等をお送りいたします。

【記載事項】
1．ご所属、2．ご氏名、3．メールアドレス、
4．相談希望テーマ（A：テーマ①のみ、B：テーマ②のみ、C：テーマ①と②の両方）
5．相談したい内容（自由記載）

第一部のみ参加の方は１～３まで、第二部まで参加希望の方は１～５までの項目を明記のうえ、九州経済産業局デジタル経済室　横尾（kyushu-iot@meti.go.jp）宛、メールでご連絡ください。

【個人情報の取扱い方針】
ご提供いただいた個人情報は、事務局（九州経済産業局、一般財団法人九州オープンイノベーションセンター）及び講師が、本事業の運営においてのみ使用し、事務局においても保護について万全を期すとともに、ご本人の同意なしに事務局及び講師以外の第三者に開示、提供することはございません。なお、オンライン形式（Microsoft Teams）では、入室時に設定した登録名が画面に表示されます。個人情報保護の観点から、当日参加される際は、公表可能な名称を設定してください。（ご参加いただくための入室用URLをお知らせする際にも、改めてご案内いたします。）

【主催】九州経済産業局、一般財団法人九州オープンイノベーションセンター、大分県
【協力】おおいた地域連携プラットフォーム
【お問い合わせ先】経済産業省　九州経済産業局　デジタル経済室　　担当：村上、横尾
TEL：092-482-5552　　E-mail：kyushu-iot@meti.go.jp

(5)九州の戦略産業の振興

① 環境・エネルギー分野(K-RIP 事業)

九州環境エネルギー産業推進機構（K-RIP;277 会員）の事務局として、環境エネルギー分野の新事業の創出を推進するため、最新の環境・エネルギー・ＤＸ等の最新情報の提供、国の施策情報の提供、異業種との交流、人材育成等の研修等を開催した。

また、環境・リサイクル関連企業と台湾・ASEAN の関係機関との商談会やセミナー等を開催し会員企業の海外市場への拡大を支援した。

<1> 地域産業デジタル化支援事業 [サーキュラー・エコノミー アジア展開事業]

●九州台湾循環経済事業化研究会

世界的課題となっている廃棄物減容化とリサイクル促進を目的とし、特に廃棄物の流れを管理する「見える化」プラットフォームの台湾における事業化に関する研究会※をオンラインで 8 回実施した。その結果、Ｋ－ＲＩＰ会員企業と台湾企業との間で総代理店契約が締結されるなどの成果につながった。

※ （株）グリーナー、台湾企業、日本台湾交流協会、TJPO、九州経済産業局などが参加

●台湾環境・エネルギー産業交流事業

台湾の情勢を踏まえ、参加企業等のニーズを把握した上で、台湾の企業とのマッチングを実施した。また事業実施後も各案件のフォローアップに努め、業務提携等の具体的ビジネスの創出に努めた。

その結果、商談 21 件、成約見込み 2 件、継続 13 件があった。また、廃棄物の流れの「見える化」システム販売に関する企業間総代理店契約が 1 件締結された。

なお、九州企業の台湾での事業展開を促進し、台湾との貿易・投資の拡大を図るため、本事業の一部は、(公財)日本台湾交流協会の助成事業により実施した。

開　催　日	内　　容
１０月２０日（水）	TJ Connect Fair 2021 にてセミナー・商談会を開催

●インドネシアオンラインミッション事業

過年度より交流を行っているインドネシアで、ＩＪＢ　ＥＸＰＯにてセミナーをオンラインで開催し、現地企業等との環境プロジェクト組成に係る協議や、現地ニーズ把握のための情報収集等を実施した。

開　催　日	内　　容
11 月 11 日（木）～12 日（金）	ＩＪＢ　ＥＸＰＯにて現地企業向けセミナーを開催

●ベトナム循環型経済プロジェクト形成促進事業

九州企業の関心の高いベトナムに向けてのＰＲ動画を作成し、現地企業等へのオンラインマッチングを実施した。また、ベトナムの農業バリューチェーン向けのＰＲセミナーを実施した。

・日本の支援企業　9 社

・ベトナム企業等との商談(マッチング)37 件、PR セミナー8 回　実施

これらにより、ベトナムでの案件化に向けた取り組みを加速し、九州・ベトナム間の循環型経済・農業プロジェクト形成・促進を図った。

なお、九州企業のベトナムでの事業展開を促進し、ベトナムとの貿易・投資の拡大を図るため、本事業の一部は、(一財)貿易・産業協力振興財団の助成事業により実施した。

②医療機器・ヘルスケア分野(HAMIQ 事業)

九州ヘルスケア産業創出推進協議会(HAMIQ;173 会員)の事務局として、九州の半導体や自動車産業で蓄積した精密加工技術等を活用した医療機器分野への参入、医療・介護機関とサービス事業者のコラボレーション、医用機器メーカーの販路開拓、海外事業展開を支援、AI や IoT 技術の医療分野での活用・サービスに係るヘルスケアの需要の創出等を目的に専門家を配置し、支援した。

<1>地域産業デジタル化支援事業

デジタル化の進展を踏まえ、医療・ヘルスケア分野での新たな価値を提供する製品やサービスの創出を目指した取組みを実施。

実施事項	実　施　概　要
ビジネスモデル実証支援	AMI 株式会社が開発する「クラウド健進®」を利用し、宿泊することでヘルスケアにつながるサービス開発のため、ホテルレクストン鹿児島、ホテル＆レジデンス南洲館において血液検査やリモート診断など延べ４８名実証を実施。今後、就寝中に健康診断できる実証事業を検討中。
九州アライアンス会合の実施	九州管内の地域版次世代ヘルスケア産業協議会６行政体が参画。 11 月 26 日、「令和４年度以降の実証支援企業の発掘」についてオンラインによる意見交換会を開催。 HAMIQ は、段野 PM を中心として九州各県から情報収集、企業ヒアリング及び企業訪問を実施中。
デジタルヘルスケア関連イベント	事業再構築補助金等説明会@東九州メディカルバレー(9/1)の開催 医療・ヘルスケア分野の企業に向けて、経済産業省の事業再構築補助金説明会および個別相談会を大分県及び宮崎県の協力を得て開催。大分県庁と HAMIQ からのオンラインで実施。参加者数 38 名。
情報発信	冊子ヘルスケアネクスト 9 号(9 月)、10 号(12 月)1,000 部発刊。

●鹿児島のホテルレクストンと南洲館で遠隔健診の実証　就寝中のデータ収集も実施

●九州アライアンス会合 Web 会議の模様

〈事例紹介時の様子〉

〈主催者側の様子〉

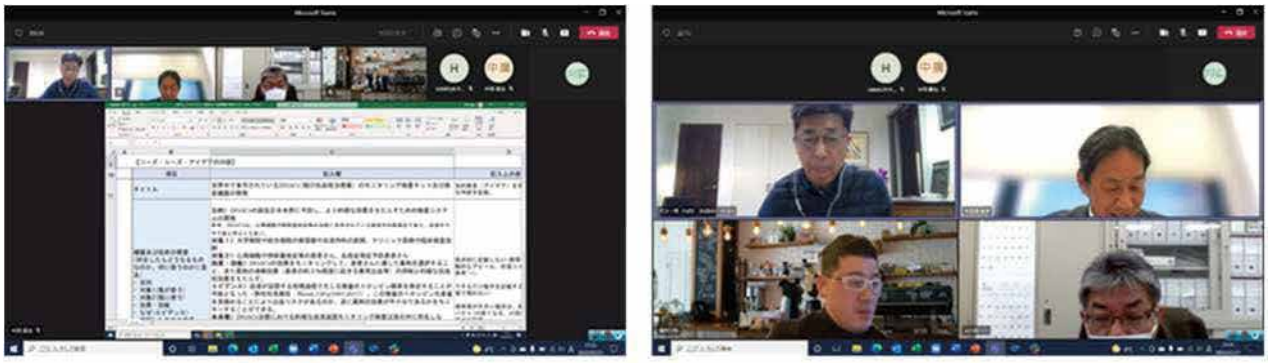
<2>地域連携拠点自立化推進事業

経済産業省の医療機器分野予算が今年度から AMED(国立研究開発法人日本医療開発機構)事業へ移管されたことを受けて、案件初期段階からグランドデザインを描き事業計画に基づいた伴走支援体制の構築を求められた。

「作ったけど売れない」から「売れる視点」の医療機器開発を目指した医工連携支援事業の体制整備に時間を要し、事業採択が 12 月迄かかり、活動自体は 2022 年 1 月からの開始となった。（令和 4 年度までの 2 か年事業）

実施事項	実　施　概　要
案件発掘事業	4 回の案件評価委員会実施 今後毎月 1 回開催　ディーラー協力体制の構築
専門家派遣	支援決定案件に対して開発段階に合わせて専門家を派遣し伴走支援
情報提供拠点	ホームページを活用して医療機器開発に必要な基礎知識を動画配信 内視鏡手術動画配信企業と連携して開発に役立つ動画を提供

●案件評価委員会を Web 会議にて 4 回実施



〈案件評価委員会（Web 会議）の様子〉

③ 半導体・エレクトロニクス分野(SIIQ 事業)

九州半導体・エレクトロニクスイノベーション協議会（SIIQ;240 会員）の事務局として、DX の推進のため、先進事例の調査を行うと共に、その結果を事例集にまとめ広く周知した他、新たなビジネスモデルの構築支援や、ビジネスマッチング支援、ネットワーキング事業、研究奨励事業、情報発信事業等を実施した。

●地域産業デジタル化支援事業 [DX 推進事業]

地域ものづくり企業のデジタル化に関する事例収集や普及活動、予備軍発掘、地域未来牽引企業を対象に新たなビジネスモデルの事業化に資する実証事業を実施し、優良事例を HP で公開するなど横展開を図った他、ビジネスモデル実証予備軍の発掘に向けて、9 月 17 日にオンラインで「第 1 回地域産業デジタル化セミナー」を開催すると共に 12 月 7 日には、異分野の業界動向等に関するワークショップを開催し、自社の変革に向けマインドチェンジの契機となるワークショップを開催した。

更には、22 年 1 月 17 日に、経営層の意思決定速度向上のため Microsoft Power BI ハンズオントレーニングを実施し、DX への取組を加速させた。なお、2 社に対して、遠隔支援コミュニケーションツール活用による新サービスビジネスモデル構築支援の実証を行った。

④ 食品製造業のデジタル化推進事業

九州の食品製造業は、人手不足や消費の多様化等により企業数・売上とも減少するなど、厳しい環境に直面している。この課題を解決するため、データ等のデジタル技術を活用した市場分析や新製品開発、工場内のスマート化などの新たな動きが生まれている。

当該事業では、九州の食品製造業の生産性を上げ、新たな付加価値や市場の獲得を支援するため、先進の企業１４社にヒアリングを実施し、先進事例集(動画や映像)の策定を行うとともに、食品製造業デジタル化セミナーにて事例集の周知を図り、デジタル化をサポートするベンダーと食品製造業のマッチングを支援した。

先進事例ヒアリング調査 （１４社）	藤本グループ、ふくや、DAIZ、九南サービス、塩山食品、 白金酒造、水溜食品、丸俊、株式会社共同、 オオヤブデイリーファーム、溝上酒造、オーエーセンター㈱、 三好食品工業、株式会社しんこう
中小食品製造業者のための デジタル化セミナー＆マッチング相談会	令和４年３月２日（水曜日）オンライン開催 ＜第１部＞オンラインセミナー：参加者 53 名 ＜第２部＞オンラインマッチング相談会：３社

２．産業技術振興事業

(1)オープンイノベーションによる産業技術の振興

① 九州オープンイノベーション情報サイト事業

九州オープンイノベーション創出戦略会議（KICC）の枠組みと連携して、企業等のニーズ・シーズの情報提供やコーディネータによるマッチング活動を推進し、新事業の創出を支援した。

●オープンイノベーション・ソリューション・サイトの運営

区分	件数 （九州サイト）	件数 （リンカーズ）	件数 （ナインシグマ）
ニーズ登録	88	159	44
シーズ登録	5	–	–
マッチング	2	9	0

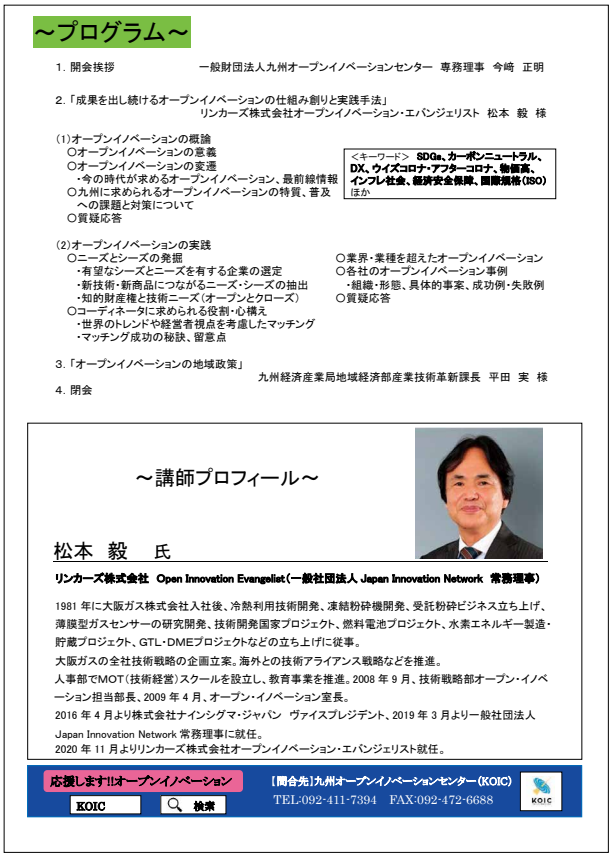
●ニーズ・シーズに関するアンケート調査

1,400 社・団体を対象にニーズ・シーズに関するアンケート調査を実施し、52 社・団体から回答を得た。そのうち 13 社を訪問し、具体的なニーズやシーズについての意見交換を実施した。

●オープンイノベーションセミナー

中小企業のオープンイノベーションの先行事例と留意点、オープンイノベーションとクローズドイノベーションの使い分け、オープンイノベーションに必要なスキルや組織のあり方等を学ぶ「オープンイノベーションセミナー」を開催した。

開催日	件名	実施概要
令和４年 ２月 15 日	オープンイノベーションセミナー （オンライン）	オンライン開催　81 名参加 ・オープンイノベーションの最前線情報、知財と技術ニーズ、コーディネータに求められる役割・秘訣、各社の具体的事例等 リンカーズ株式会社　ｵｰﾌﾟﾝｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ･ｴﾊﾞﾝｼﾞｪﾘｽﾄ　松本　毅氏 ・オープンイノベーションの地域戦略 九州地域経済産業局地域経済部産業技術革新課長　平田　実氏

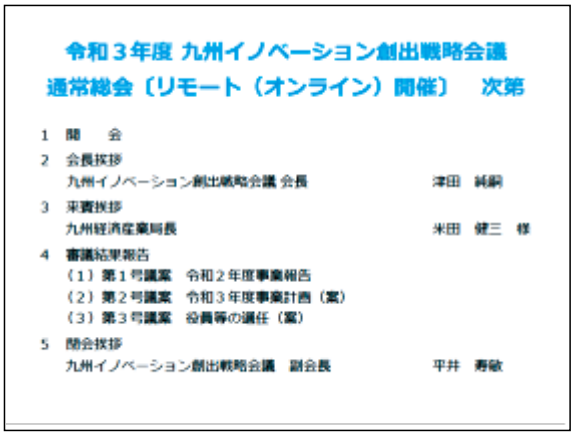


② 九州イノベーション創出戦略会議（KICC)

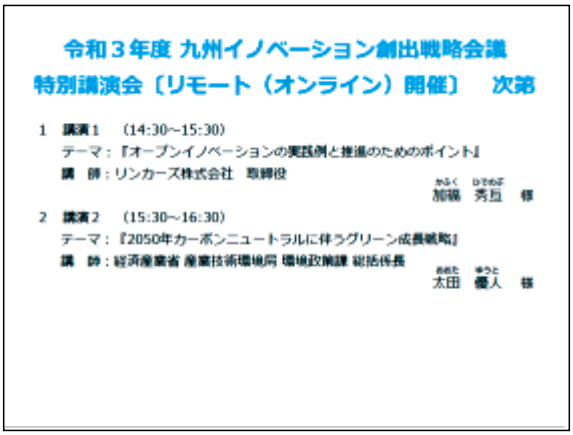
九州イノベーション創出戦略会議（KICC）の事務局として、九州の 62 の大学・高専・公設試等と連携して企業の技術課題解決に資する活動及びビジネスモデル構築を支援した。

●通常総会・特別講演会の開催

通常総会	・書面決議（審議期間：令和３年７月 13 日～21 日） 令和２年度事業実績報告、令和３年度事業計画（案）、役員等の選任（案）について 62 機関中 54 機関から書面表決書を受領し全て承認 ・オンライン開催（令和３年７月 27 日） 書面決議結果を報告
特別講演会	・オンライン開催（令和３年７月 27 日） 講演１：オープンイノベーションの実践例と推進のためのポイント リンカーズ(株)取締役　加福 秀亙氏 講演２：2050 年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略 経済産業省産業技術環境局環境政策課総括係長　太田 優人氏


令和３年度 九州イノベーション創出戦略会議
通常総会（リモート（オンライン）開催）　次第

1　開　会
2　会長挨拶
　九州イノベーション創出戦略会議 会長　津田 純嗣
3　来賓挨拶
　九州経済産業局長　米田 健三 様
4　審議結果報告
　（1）第１号議案　令和２年度事業報告
　（2）第２号議案　令和３年度事業計画（案）
　（3）第３号議案　役員等の選任（案）
5　閉会挨拶
　九州イノベーション創出戦略会議　副会長　平井 寿敏


令和３年度 九州イノベーション創出戦略会議
特別講演会（リモート（オンライン）開催）　次第

1　講演１　(14:30～15:30)
　テーマ：『オープンイノベーションの実践例と推進のためのポイント』
　講　師：リンカーズ株式会社　取締役
　加福（かふく） 秀亙（ひでわた） 様
2　講演２　(15:30～16:30)
　テーマ：『2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略』
　講　師：経済産業省 産業技術環境局 環境政策課 総括係長
　太田（おおた） 優人（まさと） 様

●KICC ホームページの更新（開放機器情報、KICC 構成機関コーディネータ・マネージャー）

KICC のホームページ上でオープンにしている、KICC 構成機関の開放機器情報の更新を行い、相互利用の促進を行うとともに、KICC 構成機関のコーディネータ・マネージャー情報の更新を行い、企業等の技術相談等の推進を行った。

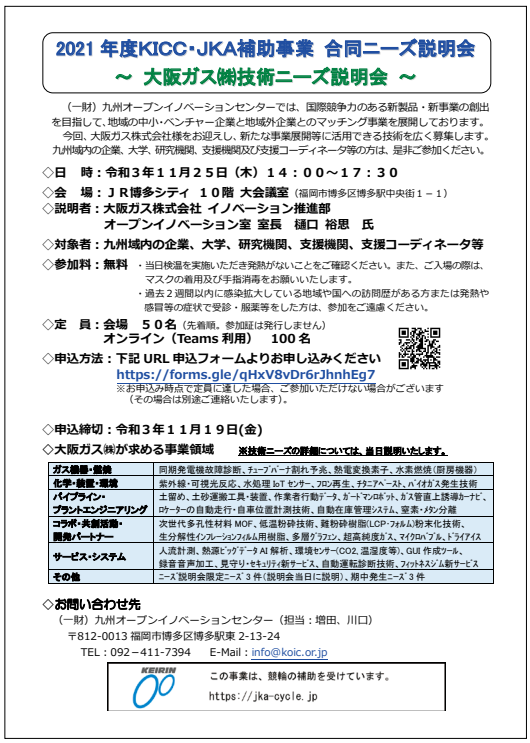
●KICC 構成機関との意見交換

KICC 構成機関のうち、工業技術センターを対象に KICC 事業の紹介及び OISS サイト（技術ニーズ、シーズ）や開放試験機器データベース、コーディネータ等の活用の活性化に関する意見交換を実施した（長崎県工業技術センター）。

●大手企業の技術ニーズ説明会

大阪ガスによる技術ニーズ説明会を開催し、マッチング等を実施。

実施日	参加者	マッチング状況
令和３年 11 月 25 日	会場参加者：19 名 オンライン参加者：24 名	64 項目のニーズに対して、4 機関 6 件の提案があり、1 機関 3 件に関して一次面談を実施（1 月 25 日）、そのうち 1 件に関して二次面談を実施（2 月 15 日）



2021 年度KICC・JKA補助事業 合同ニーズ説明会
～ 大阪ガス㈱技術ニーズ説明会 ～

（一財）九州オープンイノベーションセンターでは、国際競争力のある新製品・新事業の創出を目指して、地域の中小・ベンチャー企業と地域外企業とのマッチング事業を展開しております。
今回、大阪ガス株式会社様をお迎えし、新たな事業展開等に活用できる技術を広く募集します。
九州域内の企業、大学、研究機関、支援機関及び支援コーディネータ等の方は、是非ご参加ください。

◇日　時：令和３年１１月２５日（木）１４：００～１７：３０
◇会　場：ＪＲ博多シティ　１０階 大会議室（福岡市博多区博多駅中央街１－１）
◇説明者：大阪ガス株式会社 イノベーション推進部
　　オープンイノベーション室 室長　樋口 裕思　氏
◇対象者：九州域内の企業、大学、研究機関、支援機関、支援コーディネータ等
◇参加料：無料　・当日検温を実施いただき発熱がないことをご確認ください。また、ご入場の際は、マスクの着用及び手指消毒をお願いいたします。
・過去２週間以内に感染拡大している地域や国への訪問歴がある方または発熱や感冒等の症状で受診・服薬等をした方は、参加をご遠慮ください。
◇定　員：会場　５０名（先着順、参加証は発行しません）
　　オンライン（Teams 利用）　100 名
◇申込方法：下記 URL 申込フォームよりお申し込みください
https://forms.gle/qHxV8vDr6rJhnhEg7
※お申込み時点で定員に達した場合、ご参加いただけない場合がございます（その場合は別途ご連絡いたします）。

◇申込締切：令和３年１１月１９日(金)
◇大阪ガス㈱が求める事業領域　※技術ニーズの詳細については、当日説明いたします。

ガス機器・設備	同期発電機故障診断、チューブパーナ耐れ予兆、熱電変換素子、水素燃焼（厨房機器）
化学・資源・環境	紫外線・可視光反応、水処理 IoT センサー、フロン再生、チタニアペースト、バイオガス発生技術
パイプライン・プラントエンジニアリング	土留め、土砂運搬工具・装置、作業者行動データ、ガードマンロボット、ガス管直上誘導カーナビ、ロケーターの自動走行・自車位置計測技術、自動在庫管理システム、窒素・メタン分離
コラボ・共創活動・開発パートナー	次世代多孔性材料 MOF、低温粉砕技術、難粉砕樹脂(LCP・フォルム)粉末化技術、生分解性インフレーションフィルム用樹脂、多層グラフェン、超高純度ガス、マイクロバブル、ドライアイス
サービス・システム	人流計測、熱源ビッグデータ AI 解析、環境センサー(CO2, 温湿度等)、GUI 作成ツール、録音音声加工、見守り・セキュリティ新サービス、自動運転診断技術、フィットネスジム新サービス
その他	ニーズ説明会限定ニーズ 3 件（説明会当日に説明）、期中発生ニーズ 3 件

◇お問い合わせ先
（一財）九州オープンイノベーションセンター（担当：増田、川口）
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東 2-13-24
TEL：092－411-7394　E-Mail：info@koic.or.jp

この事業は、競輪の補助を受けています。
https://jka-cycle.jp

(2)九州 Earth 戦略に基づくイノベーション創出事業

九州の産業成長戦略である九州 Earth 戦略Ⅱにおけるモノづくり基盤や先端技術等の事業化を通じたイノベーションを創出するため、10 人の非常勤コーディネータ等と職員による中小企業の訪問によるニーズ調査等のコーディネータ活動により調査・発掘した技術やビジネスのシーズ・ニーズを事業化するため、九州内外の企業・大学・産業支援機関とのマッチングや KOIC 内部に設置したコーディネータで構成する研究会におけるブラッシュアップを通じて案件の事業化を図るとともに、技術開発等が必要な案件は国の技術開発事業に申請して事業化を推進するなど一貫した事業化支援事業を実施した。

64 件のニーズ調査を行い、それを踏まえ 18 件のマッチングを実施した。

さらに、発掘したニーズの事業化の技術や販路等の課題を検討するブラッシュアップ研究会を15 件発足した。しかし、年間 120 件のニーズ調査等の当初計画は新型コロナウイルス感染症拡大のため、企業等の訪問が進まず目標を大きく下回った。

技術開発の前段階の技術課題や市場の分析を助成し、本格的な技術開発につなげて事業化を図るための公募事業 5 件を採択し、技術開発の立ち上げを支援した。

また、九州の中小企業と大手企業の新規取引を支援するため、大阪ガスによるニーズ説明会とオープンイノベーションセミナーを開催した。

さらに、当財団の支援事例及び、九州の企業の技術等を紹介するための展示会出展を行った。

※JKA：Japan Keirin Autorace Foundation　自転車・小型自動車公営競技を振興する公益法人
売上の一部を機械振興と公益事業の振興事業に補助している。

① 委員会、会議等による事業統括・管理

事業推進委員会、コーディネータ会議を開催し、事業の方向性、事業の推進状況等を統括、管理し企業のニーズに適切に対応した。

委員会・会議名	開催日	内　　容
事業推進委員会	5 月 27 日～ 6 月 14 日	コロナ禍により委員の了承の基書面開催で実施 2021 年度機械振興チャレンジ研究調査の審査 2019 年度 JKA 補助事業自己評価Ⅱ審議
	2 月 9 日	コロナ禍によりオンライン開催で実施 2021 年度 JKA 補助事業自己評価Ⅰ審議 2022 年度 JKA 補助事業の概要説明 2021 年度機械振興チャレンジ研究調査成果の評価
コーディネータ会議	5 月 25 日	2020 年度活動実績、2021 年度 JKA 補助事業概要 コロナ禍によりオンライン開催で実施 コーディネータ活動について　他
	8 月 30 日	2021 年度コーディネータ活動実施状況 コロナ禍によりオンライン開催で実施 モノづくりフェア及び JKA 事業成果発表会について　他
	11 月 25 日	2021 年度コーディネータ活動実施状況 2022 年度 JKA 補助事業の申請内容について ニーズ・シーズ調査（アンケート結果）に関するヒアリングについて　他
	3 月 10 日	コロナ禍により会場とオンラインのハイブリッド開催で実施 2021 年度コーディネータ活動実施状況 2021 年度 JKA 補助事業自己評価Ⅰについて　他

②コーディネータによる企業支援

企業のニーズ調査から事業化まで、一貫して支援体制を構築するとともに、事業実施プロセスの「見える化、共有化及び協働化」の仕組みを導入し、支援機関等並びに成功報酬型コーディネータと連携し効率的な支援を推進した。

● **コーディネータ活動（技術ニーズの発掘、シーズとのマッチング、ブラッシュアップ研究会）**

マッチングの結果、10 件（公募の５件を除く）のブラッシュアップ研究会を発足した。

ブラッシュアップ研究会の結果、各案件の改良・改善をフォローするとともに、国等の技術開発事業への申請及び、事業化を目指すための支援を行っている。

ニーズ調査 （コア技術調査）	（ニーズ有） （調査の内数）	マッチング	活動件数計	ブラッシュアップ研究会 発足数
６４	（１１）	１８	８２	15

活動件数の目標：120 件、ブラッシュアップ研究会発足数の目標：20 件

● **機械工業振興チャレンジ研究調査（公募）**

技術開発前の技術課題や市場の分析を支援するために、大学・公設試・企業等に対して公募を行い１１件の応募があり、事業推進委員会の審議を経て５件を採択した。

案件毎の研究会を開催し、技術的課題を検討し、市場動向の分析等を行った結果、５件とも継続して研究を続け、資金獲得や事業化を目指す予定である。

研究題目	参加機関・企業	成　　果
シンクロトロン光Ｘ線を利用する LIGA 微細加工にて製作した医療用画像診断装置Ｘ線グリッドの放射線被曝量低減効果の検証	田口電機工業株式会社 産業技術総合研究所九州センター	次年度継続研究
ショウガ茎葉抽出物の機能性評価とその利用	瑞輝科学生物株式会社 熊本大学薬学教育部 株式会社グロービック	次年度継続研究
めっき技術を応用した微量体液向け電気伝導率測定用紙媒体チップ	九州工業大学 吉玉精鍍株式会社 産業医科大学 北九州産業学術推進機構	次年度継続研究
勝手違い両開き扉の開発	日章工業株式会社 九州大学大学院芸術工学研究院	次年度継続研究
天然由来素材(タンニン)の機能性探索と活用機材装置の開発	セイリン株式会社 鹿児島大学附属越境性動物疾病制御研究センター 株式会社新原産業 富士化学工業株式会社 北里大学獣医学部	次年度継続研究

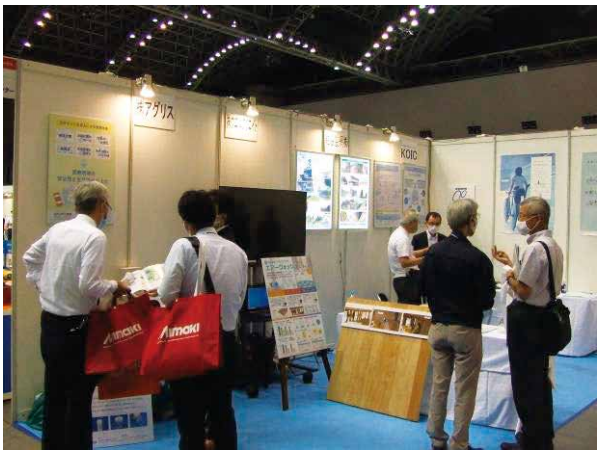
③セミナー・ニーズ説明会・成果報告会・展示会出展

九州の中小企業と九州内外の大手企業と新規取引や業務提携等を促進するため、大手企業が保有するニーズや課題をオープンにして、具体的な解決方法の提案を募る発表会を開催し、マッチングの促進をするとともにフォローアップを図った。

また、九州域内企業の研究開発支援及び事業化支援の一環として行っている機械工業振興チャレンジ調査研究の成果を広く紹介するとともに、「モノづくりフェア 2021」にて KOIC の支援事例及びこれまでにブラッシュアップ研究会で支援した中小企業の技術や製品等の紹介する展示会に出展し、販路開拓や業務提携等事業展開のチャンスを広げた。

開 催 日	実施概要	参加・進捗状況
11 月 25 日	大阪ガス㈱ニーズ説明会を会場とオンラインで開催（KICC と共催） ビジネスマッチングを促進する説明会実施	会場 19 名、オンライン 24 名 合計 43 名参加 ・4 機関 6 件がエントリー、うち 1 機関 1 件が二次面談
2 月 15 日	リンカーズ㈱オープンイノベーションセミナーをオンラインで開催 オープンイノベーションの成功・失敗事例、マッチング成功の秘訣等の実例を紹介するセミナーを実施	81 名参加
10 月 13 日	JKA 補助事業成果発表会開催（モノづくりフェア 2021 内）機械工業振興チャレンジ調査研究の成果を広く紹介	24 名参加

10 月 13 日～ 10 月 15 日	モノづくりフェア 2021 に出展 KOIC の支援事例及び九州域内中小企業の技術や製品等の紹介し、販路開拓や業務提携等事業展開のチャンスを広げるため出展（㈱アグリス、㈱ウェルクリエイト、粕谷製網㈱の 3 社出展支援）	フェア来場者数：合計 13,147 名 支援企業 3 社について、 ・商談につながった件数：3 件 ・開発/製造/販売における提携先が見つかった件数：5 件



(3)戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン＊）

特定ものづくり基盤技術(情報処理、精密加工等の１２分野)の新規事業の創出を支援するため、企業の技術と大学・高専・公設試のシーズや専門的知見を結集して行う経産省の産学連携型の技術開発事業の補助を受け、効率的な開発と事業化することを目的としたマネジメントを行った。

本年度は、２件の新規案件と２件の継続案件の事業化に向けて、事業管理機関として企業・大学・研究機関等と連携した効率的な事業運営を行った。

＊サポイン：基盤技術分野の新技術・新事業開発を促進する、経産省補助金事業

対象は中小企業・大学・高専・公設試、上限３年間 9,750 万円、補助率：中小企業 2/3、公設試等 定額

分野	件　　名	補助先
材料製造プロセス	低コスト化・難燃化ニーズに応えるため、表面改質技術とテンション制御技術を活用した樹脂製亀甲網の開発 【令和元年度～令和３年度】	粕谷製網(株) 他３機関
バイオ	日本初の機能性表示食品制度に適合した高機能性プラセンタエキスの開発 【令和元年度～令和３年度】	佳秀工業(株) 他２機関
精密加工	車載用半導体デバイスの切断工程の工法転換を実現する刃先先端 R シングルナノメートルの刃物の開発 【令和３年度～令和５年度予定】	(株)ファインテック 他２機関
測定計測	土壌汚染を簡易・迅速に分析する重金属検出技術を活用した簡易検出材 OCTES-2 の開発 【令和３年度～令和５年度予定】	(有)坂本石灰工業所 他４機関

(4)他機関との連携事業

産業支援機関や公設試のコーディネータやマネージャーとのネットワークを構築し様々な相談等に対する広域的コーディネート活動を支援した。

実施日	件名	主な内容
10 月 7 日	九州・沖縄産業技術オープンイノベーションデー参画	国立研究開発法人産業技術総合研究所九州センターの最新の技術開発等情報の提供、情報交換及び研究成果の民間企業への橋渡しに繋げるための交流の場として開催され、参画
11 月 22 日	福岡商工会議所との意見交換	企業等の技術ニーズ・シーズのマッチングの取組みに関する意見交換を実施
12 月 14 日	韓国貿易センター(福岡)との意見交換	韓国企業のシーズと九州企業のニーズのマッチングに関する意見交換を実施
6 月 24 日	ＫＦＣ※特特別講演の開催	ＫＦＣの事務局としてスムーズな運営に努めた ＫＦＣ総会、講演会の開催 ※九州ファインセラミックス・テクノフォーラム
11 月 29 日	KFC ｾﾗﾐｯｸｽ研究交流セミナーの開催	

３．啓発普及事業

(1)九州異業種交流会

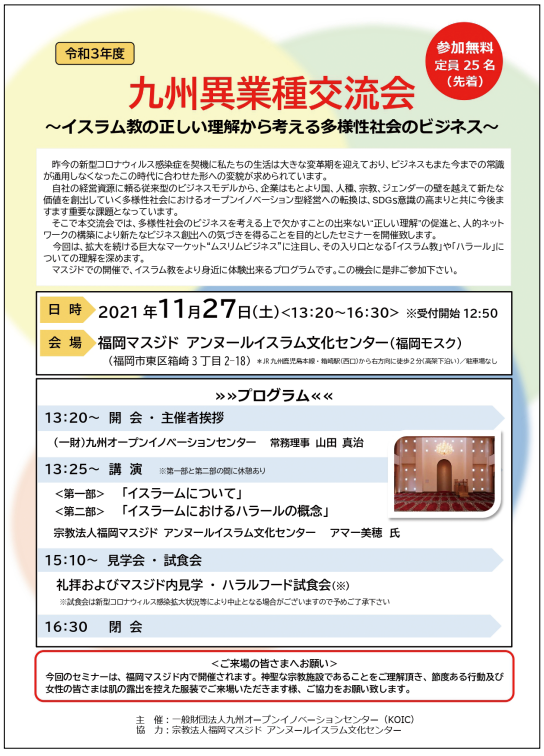
異業種の人材が自由に参加・交流することにより、オープンイノベーションに必要な新しい発想やアイディアの醸成をするとともに、多様な人的ネットワークを形成・拡大することを目的とした交流会を「訪日外国人インバウンド」「ムスリムビジネス」をテーマに２回開催した。

参加者の内訳は、サービス・インフラ、金融、製造業、農業、教育等多種多様な業種の人材が参加した。

参加者へのアンケート調査の結果では、新型コロナの感染対策下での交流会であったため、意見交換時間や、交流時間の短さを指摘する意見もあったが、２回の交流会とも、参加者全員が「大変満足」「やや満足」と回答し、高い満足度を得られた。

開催日	実施概要
令和３年 5月 14 日(金) 【令和２年度 延期分】 参加者:8 名	『訪日外国人を日本と日本人のファン（リピーター）にするためには』 1.開会挨拶 2.講　　演：「ホスピタリティから広がる世界」 熊本学園大学 商学部 教授 ホスピタリティ・マネジメント学科長　波積 真理 氏 3.事例発表：「九州極（きわみ）－心に響く・五感が喜ぶ特別体験のご提供」 九州電力㈱テクニカルソリューション統括本部 情報通信本部 ICT 事業推進１グループ reQreate プロジェクトマネージャー　湯越 美紀 氏 4.ワークショップ(事業提案) ●テーマ：「日本と日本人のファンを増やすための、多様な人材が参加するインバウンド事業を考える」 ●ファシリテーター：学校法人先端教育機構 事業構想大学院大学 客員教授／若林ビジネスサポート代表／地域活性化伝道師（総理府）　若林 宗男 氏

令和３年 11 月 27 日(土) 参加者:17 名	『イスラム教の正しい理解から考える多様性社会のビジネス』 １．開会挨拶 ２．講　　演：<第１部>「イスラームについて」 　　<第２部>「イスラームにおけるハラールの概念」 宗教法人福岡マスジド アンヌールイスラム文化センター アマー 美穂 氏 ３.見学会・試食会：礼拝及びマスジド内見学・ハラルフード試食会



(2)九州経済を考える懇談会

九州の経済界のトップ※が一堂に会し、「九州経済のあり方や課題および具体的な政策」を議論し、九州戦略会議・九州知事会および国等へ意見具申・要望を行う懇談会を、共同事務局の(公財)九州経済調査協会と連携して開催した。

懇談会メンバーが大幅に交代したこともあり、今後の懇談会の運営やテーマについての議論を行った。今後の方向性としては、DX の深堀、コロナ後のインバウンドを中心に議論することとなった。

また、KOIC より DX の人材育成について提言し、発足させた「九州デジタル経営塾（キックオフセミナー、大分、鹿児島、宮崎開催）の今年度実施報告を行った。

※（一社)九州経済連合会会長、（一財)九州オープンイノベーションセンター会長、九州商工会議所連合会会長、九州経済同友会代表委員、九州経営者協会会長、（公財)九州経済調査協会理事長

開催日	実施概要
7月7日 （水）	・討議「懇談会の運営・テーマについて」 ・報告「地域包括 DX 推進拠点」について　デロイトトーマツ磯俣氏
令和４年 2月9日 （水）	・討議「九州観光の再活性化・基幹産業化について」「DX による地方創生について」 ・報告「九州デジタル経営塾開催報告（キックオフ・大分・鹿児島・宮崎)」 KOIC 瓜生会長

(3)地域技術交流事業

九州・沖縄地区国立大学法人産学官連携関連センター長等会議

九州・沖縄地区国立大学法人と産業界等との研究業務の円滑な遂行を図ることを目的に、関連法人と当財団がネットワークを構築し、産学官連携に関する現状と課題、協力体制等について意見交換を行った。

開催日	場所	意見交換テーマ
11 月 12 日 （金）	鳥栖市	・産学官連携に関しての失敗事例　～失敗事例に学ぶ～ ・産学官連携関連センター長等会議の枠組みを活用した取り組みについて

４．人材育成事業

(1)九州デジタル経営塾

デジタル技術やデジタル基盤を活用した事業の変革、組織の変革、発想の変革、価値の変革に関する九州の経営者層の理解の増進および参加経営層の真のネットワークの構築を目的として、「九州デジタル経営塾」を設置し、九州経済連合会、九州経済同友会、九州商工会議所連合会、九州経営者協会、九州経済調査協会と連携して、福岡（キックオフセミナー）、大分、鹿児島、宮崎にてワークショップを開催した。

内容は、１泊２日を基本として、グループワークを中心にデジタルと経営を学びながら、経営者同士の交流を深め、自社における DX 推進の可能性について考え、DX 実装の気づきや決意を得ていただく場を提供した。交流会費などを含む有料での開催としたが、参加者へのアンケート調査の結果は、概ね良好であった。

なお、宮崎での開催は、新型コロナの感染拡大の影響を受け、オンラインによる開催となった。

開　催　日	内　　容
福岡キックオフ 7 月 12 日(月) 参加者 計 440 名 （来場 105 名 オンライン 335 名）	○開催場所　　共創館みらいホール ○プログラム ・主 催 者 挨 拶　一般社団法人　九州経済連合会　会長　倉富　純男氏 一般財団法人　九州オープンイノベーションセンター会長　瓜生　道明 ・来 賓 挨 拶　九州経済産業局　局長　米田　健三氏 ・塾 長 講 話　株式会社安川電機　代表取締役会長　津田　純嗣氏 ・講　演 ⑴　株式会社グッデイ　代表取締役社長　柳瀬　隆志氏 ・講　演 ⑵　株式会社グルーヴノーツ　代表取締役会長　佐々木　久美子氏 ・名刺交換会　米田局長を除く上記５名、ホワイエにて。
大分 11 月 12 日(金)、 13 日(土) 参加者 25 名	○開催場所　　レンブラントホテル大分 ○プログラム ・主催者挨拶　一般財団法人　九州ｵｰﾌﾟﾝｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ　会長　瓜生　道明 ・塾 長 講 話　株式会社安川電機　代表取締役会長　津田　純嗣氏 ・講　演　株式会社グッデイ　代表取締役社長　柳瀬　隆志氏 ・ワークショップ　株式会社ＤＸパートナーズ　代表取締役　村上　和彰氏 同　アドバイザリーパートナー　徳永　美紗氏 ・交　流　会　地下ラウンジにて。
鹿児島 12 月 3 日(金)、 4 日(土) 参加者 25 名	○開催場所　　城山ホテル鹿児島 ○プログラム ・主 催 者 挨 拶　一般財団法人　九州ｵｰﾌﾟﾝｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ　会長　瓜生　道明 ・塾 長 講 話　株式会社安川電機　代表取締役会長　津田　純嗣 氏 ・講　演　株式会社トライアルホールディングス　CIO　西川　晋二 氏 ・ワークショップ　株式会社野村総合研究所　主席研究員　藤野　直明 氏 同　上級コンサルタント　梶野　真弘 氏 ・交　流　会　エメラルドホールにて。
宮崎 令和4年 1月28日(金)、 29 日(土) 参加者 26 名	○オンライン開催 ○プログラム ・主 催 者 挨 拶　一般財団法人　九州ｵｰﾌﾟﾝｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ　会長　瓜生　道明 ・塾 長 講 話　株式会社安川電機　代表取締役会長　津田　純嗣氏 ・講　演　有限会社ゑびや/株式会社 EBILAB 代表取締役社長　小田島 春樹氏 ・ワークショップ　株式会社ＤＸパートナーズ　代表取締役　村上　和彰氏 同　アドバイザリーパートナー　徳永　美紗氏 ※5 名のファシリテータによる WEB 上でのワークショップ

福岡　会場

大分　会場

鹿児島　会場

宮崎　リモート

九州デジタル経営塾

～キックオフセミナー～

はじめに

- 九州の経済界6団体が連携して、企業経営のデジタルトランスフォーメーション（DX）に取り組む経営層を対象とした九州デジタル経営塾を開講いたします。

必要性

- 2019年IT人材白書によれば日本の約1/4の企業がデジタル化に取り組んでいません。理由として、自社の基幹システムの設計・開発、保守をSIerに外注してきたことから、自社の事業のデジタル化やデータを評価し、活用する人材が不足していること、さらに、IT化やデジタル化に対する経営層の理解不足及び理解があっても自社のIT人材に頼るところが大きいなどが指摘されています。
- このような状況を打開するには、まず、経営層がICTやデジタル技術を利用して、既存事業の見直し、新事業への展開、顧客価値の提供及びそれを進めるための組織改革など、デジタルを経営に活かし、変革することが求められています。
- また、急激に変貌を遂げる経営環境にあって、単独企業だけではその対応が困難になりつつある中、新たな共創のはじまりとなる経営層同士の「コミュニケーションの場」が期待されています。

目 的

- データ活用をはじめ、デジタル技術やデジタル基盤を活用した事業の変革・組織の変革・発想の変革・価値の変革（顧客価値と自社の価値）に対する九州の経営層の理解の増進及びネットワークの構築を目的とします。

日　時　2021年7月12日（月）13:30～16:40（セミナー終了後に名刺交換会）

場　所　電気ビル共創館4階　みらいホール
福岡市中央区渡辺通2-1-82　0120-222-084

主　催　一般社団法人九州経済連合会、九州商工会議所連合会、九州経済同友会
九州経営者協会、公益財団法人九州経済調査協会
一般財団法人九州オープンイノベーションセンター

定　員　会場　100名、
オンラインZoomウェビナー（Web）　500名　参加費無料

プログラム

13:30～	主催者挨拶	一般社団法人九州経済連合会会長	倉富　純男
		一般財団法人九州オープンイノベーションセンター会長	瓜生　道明
13:50～	来賓挨拶	九州経済産業局長	米田　健三氏
14:00～	塾長講話	株式会社安川電機代表取締役会長	津田　純嗣氏
14:30～	デジタル経営講演1	株式会社グッデイ代表取締役社長	柳瀬　隆志氏
15:30～	休憩		
15:40～	デジタル経営講演2	株式会社グルーヴノーツ代表取締役会長	佐々木久美子氏
16:40～	名刺交換会		

九州デジタル経営塾キックオフセミナー

◆ 講演内容

講演１『グッデイのデジタル経営への挑戦～データを駆使したＵＸの達成～』

株式会社グッデイ　代表取締役社長　柳瀬　隆志氏

・北部九州・山口にホームセンターを展開する株式会社グッデイは、2015年頃からクラウドとBIツールを活用したデータ分析を積極的に行っている。
・データ分析を糸口に店舗のDXを推進し、顧客のUX向上に繋げる方法について、具体的な事例やツールを挙げながら紹介する。

【プロフィール】1976年生まれ。
東京大学経済学部卒業後、2000年三井物産に入社し、食料本部に所属、冷凍食品等の輸入業務に取り組んだ後、2008年基礎無線株式会社（のちの株式会社グッデイ）入社。営業本部長・副社長を経て、2016年6月基礎無線ホールディングス株式会社、及び株式会社グッデイ社長就任。
2017年4月からは、グループ会社の株式会社カホエンタープライズにて、クラウド活用やデータ分析を行う事業にも取り組んでいる。

講演２『知っておくべきテクノロジーのインパクト』

株式会社グルーヴノーツ　代表取締役会長　佐々木久美子氏

・テクノロジーの進化によって変化した価値観について

【プロフィール】
小学校5年生のときにプログラミングに出会い、プログラマー、システムエンジニア、会社役員を経て、2011年に株式会社グルーヴノーツを設立。代表取締役社長を経て、2012年に現職。福岡県出身。

お申込み

下記ＵＲＬ、ＱＲコードの申込フォームよりお申し込みください。
https://forms.gle/Dhxw5uChB1zNaJrM9

※本参加の申込書の情報は、本セミナーおよび九州オープンイノベーションセンターの運営にかかる目的のみに使用させていただきます。
オンライン（Ｗｅｂ）参加の方は、参加用のリンク先をメールにてご連絡いたします。

申込締切

７月７日（水曜日）１７時　参加費無料

お問い合わせ

KOIC:KYUSHU OPEN INNOVATION CENTER
一般財団法人九州オープンイノベーションセンター
イノベーション推進部（岩重、中村、木原）
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東二丁目13番24号
TEL 092-411-7354 FAX 092-472-6609
URL:https://www.koic.or.jp E-mail:info@koic.or.jp

備　考

・オンライン（Web）開催はインターネットを通じ、ZOOMｳｪﾋﾞﾅｰにて行います。
・ご参加に当たっては、登録後に送られてくる参加URLが必要です。
・この『九州デジタル経営塾』は、キックオフセミナーの後、鹿児島（９月１０～１１日）、宮崎（１０月８～９日）、大分（１１月１２～１３日）においてセミナーを開催いたします。

はじめに

●九州の経済界6団体が連携して、企業経営のデジタルトランスフォーメーション(DX)に取り組む経営層を対象とした「九州デジタル経営塾」を、大分県内の企業を対象として大分市にて開催いたします。

必要性

●2019年IT人材白書によれば、日本の約1/4の企業がデジタル化に取り組んでいません。理由として、自社の基幹システムの設計・開発、保守をSIerに外注してきたことから、自社の事業のデジタル化やデータを評価し、活用する人材が不足していること、さらに、IT化やデジタル化に対する経営層の理解不足及び理解があっても自社のIT人材に頼るところが大きいなどが指摘されています。

●このような状況を打開するには、まず、経営層がICTやデジタル技術を利用して、既存事業の見直し、新事業への展開、顧客価値の提供及びそれを進めるための組織改革など、デジタルを経営に活かし、変革することが求められています。

●また、急激に変貌を遂げる経営環境にあって、単独企業だけではその対応が困難になりつつある中、新たな共創のはじまりとなる経営層同士の「コミュニケーションの場」が期待されています。

●大分県では、いわゆる"ものづくり"系企業を中心として、DXへの取組みは緒についたばかりで、まだ十分に全ての産業分野に浸透していないと伺っております。ものづくり系企業以外にも、DX推進による成長は十分見込めるものと確信しております。

●本経営塾の受講を良き機会とされて、DX推進による将来の『経営戦略』の再構築をお考えになられては如何でしょうか。

目的

●データ活用をはじめ、デジタル技術やデジタル基盤を活用した事業の変革・組織の変革・発想の変革・価値の変革(顧客価値と自社の価値)に対する大分県内企業の経営層の理解の増進及びネットワークの構築を目的とします。

日時 2021年11月12日(金)16:00～13日(土)13:00

場所 レンブラントホテル大分『二豊の間』 ※ホテル及び会議場、宴会場は新型コロナ対策を実施済みです。
〒870-0816 大分県大分市田室町9-20　TEL 097-545-1027

主催 一般財団法人九州オープンイノベーションセンター、一般社団法人九州経済連合会、九州商工会議所連合会、九州経済同友会、九州経営者協会、公益財団法人九州経済調査協会

協力 九州経済連合会大分地域委員会、大分県商工会議所連合会、大分経済同友会、大分県経営者協会

定員 30名 1社2名まで参加可能
[参加対象者]
大分県内の企業の経営者・デジタル化担当役員

参加費 おひとり様 30,000円(消費税込) ※参加を申込み後、請求書を送付致します。
※[参加費に含まれるもの] 受講費、宿泊費(シングルルーム)、食費(3食)、交流会費
※ご宿泊を前提としています。

プログラム(予定)

11/12(金)
16:00 現地集合
開講挨拶
九州オープンイノベーションセンター会長　瓜生 道明
塾長　株式会社安川電機 代表取締役会長　津田 純嗣 氏
16:30 オリエンテーション
17:00 講演
株式会社グッディ　代表取締役社長　柳瀬 隆志 氏
18:00 ワークショップ
株式会社DXパートナーズ　代表取締役　村上 和彰 氏
株式会社DXパートナーズ　徳永 美紗 氏
20:00 交流会/夕食 (地下ラウンジにて)
22:00 終了

11/13(土)
9:00 開始
ワークショップ、発表
12:00 修了式/昼食
(中宴会場にて)
(講評、質疑応答)
13:00 解散

九州デジタル経営塾 in 大分

◆講演内容

講演　動かして学ぶ　データ活用のポイント

株式会社グッディ　代表取締役社長　柳瀬　隆志 氏

企業の事業において、どのようにデータを活用するのかは、重要性が益々増しています。以前に比べると、データ分析を行うBIツールが簡単に使えるようになり、Excelなどの表計算ソフトでは出来ないような多角的な分析が出来るようになっています。本講座では、実際に代表的なBIツール「Tableau」を使い、データ活用のポイントを学ぶ事が出来ます。

【プロフィール】1976年生まれ。
東京大学経済学部卒業後、2000年三井物産に入社し、食料本部に所属。冷凍食品等の輸入業務に取り組んだ後、2008年嘉穂無線株式会社(のちの株式会社グッデイ)入社。営業本部長・副社長を経て、2016年6月嘉穂無線ホールディングス株式会社、及び株式会社グッデイ社長就任。
2017年4月からは、グループ会社の株式会社カホエンタープライズにて、クラウド活用やデータ分析を行う事業にも取り組んでいる。

ワークショップ　「顧客価値起点×デジタル」で皆さんのビジネスを再構築してみましょう！

デジタル変革(DX)で実現を目指すデジタル経営。その要諦は「デジタル技術の存在を前提に、かつ、データを活用してどのような顧客価値を顧客に提供するか？さらには、顧客と顧客価値を共創する仕組みをどうつくるか?」にあります。本ワークショップではそのエッセンスを体験して頂き、参加者の皆さんのDXのお役に立たせます。

株式会社 DXパートナーズ　代表取締役　村上　和彰 氏

【プロフィール】
株式会社DXパートナーズ シニアパートナー & 代表取締役
国立大学法人九州大学 名誉教授　京都大学博士(工学)
1987年より九州大学にてコンピュータシステムアーキテクチャの教育研究に従事，2015年末に早期退職。その間，情報基盤研究開発センター長，情報統括本部長，公益財団法人九州先端科学技術研究所 副所長を歴任。2016年2月に株式会社チームAIBODを創業，多くの企業のAI導入，データ利活用，DXを支援。2020年4月に株式会社DXパートナーズを創業。

株式会社 DXパートナーズ　アドバイザリーパートナー　徳永　美紗 氏

【プロフィール】
株式会社DXパートナーズ アドバイザリーパートナー。Code for Fukuoka 代表。九州大学数理学府修了後，10年以上システムエンジニアとして地場のIT企業に勤めた後，2020年7月に独立して現在は自治体や企業向けのDX推進ワークショップやグラフィックレコーダーとして活動。

お申込み

下記URL、QRコードの申込フォームよりお申し込みください。
https://forms.gle/Mdava5sssMZv8CFx5
※本参加の申込書の情報は、本セミナーおよび九州オープンイノベーションセンターの運営にかかる目的のみに使用させていただきます。

申込締切

2021年11月9日(火曜日) 17時
※応募者多数の場合は、お断りすることがあります。

お問い合わせ

KOIC:KYUSHU OPEN INNOVATION CENTER
一般財団法人九州オープンイノベーションセンター
イノベーション推進部 (岩重、中村)
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東二丁目13番24号
TEL 092-411-7354 FAX 092-472-6609
URL:https://www.koic.or.jp E-mail:info@koic.or.jp

備考

●お申込みを確認後、ご請求書をお送り致します。必ず、事前振り込みをお願い致します。なお、当日までにキャンセル等をされた場合は、該当する所定の費用をご負担いただきます。
●自然災害の発生や新型コロナウイルス感染が拡大した場合は、開催日を2022年2月18日、19日とします。予めご了承ください。

はじめに

●九州の経済界6団体が連携して、企業経営のデジタルトランスフォーメーション(DX)に取り組む経営層を対象とした「九州デジタル経営塾」を、鹿児島県内の企業を対象として鹿児島市にて開催いたします。

必要性

●2019年IT人材白書によれば、日本の約1/4の企業がデジタル化に取り組んでいません。理由として、自社の基幹システムの設計・開発、保守をSIerに外注してきたことから、自社の事業のデジタル化やデータを評価し、活用する人材が不足していること、さらに、IT化やデジタル化に対する経営層の理解不足及び理解があっても自社のIT人材に頼るところが大きいなどが指摘されています。

●このような状況を打開するには、まず、経営層がICTやデジタル技術を利用して、既存事業の見直し、新事業への展開、顧客価値の提供及びそれを進めるための組織改革など、デジタルを経営に活かし、変革することが求められています。

●また、急激に変貌を遂げる経営環境にあって、単独企業だけではその対応が困難になりつつある中、新たな共創のはじまりとなる経営層同士の「コミュニケーションの場」が期待されています。

●鹿児島県は、農業、観光業を基幹産業として、世界に誇れる豊富な地域資源を有しています。現在、県内経済は新型コロナで深刻な影響を受けていますが、アフターコロナを見据え、コロナで変化した、人の消費行動や価値観へ対応するため、DX推進に取組むことが極めて重要であると確信します。

●本経営塾の受講を契機とされ、DX推進による将来の「経営戦略」の再構築をご検討されては如何でしょうか。

目的

●データ活用をはじめ、デジタル技術やデジタル基盤を活用した事業の変革・組織の変革・発想の変革・価値の変革(顧客価値と自社の価値)に対する鹿児島県内企業の経営層の理解の増進及びネットワークの構築を目的とします。

日時 2021年12月3日(金)16:00～4日(土)13:00

場所 城山ホテル鹿児島 ※ホテル及び会議場、宴会場は新型コロナ対策を実施済みです。
〒890-8586 鹿児島県鹿児島市新照院町41-1　TEL 099-224-2211

主催 一般財団法人九州オープンイノベーションセンター、一般社団法人九州経済連合会、九州商工会議所連合会、九州経済同友会、九州経営者協会、公益財団法人九州経済調査協会

協力 九州経済連合会鹿児島地域委員会、鹿児島県商工会議所連合会、鹿児島経済同友会、鹿児島県経営者協会

定員 30名 1社2名まで参加可能
[参加対象者]
鹿児島県内の企業の経営者・デジタル化担当役員

参加費 おひとり様 30,000円(消費税込) ※参加を申込み後、請求書を送付致します。
※[参加費に含まれるもの] 受講費、宿泊費(シングルルーム)、食費(3食)、交流会費
※ご宿泊を前提としています。

プログラム(予定)

12/3(金)
16:00 現地集合
開講挨拶
九州オープンイノベーションセンター会長　瓜生 道明
塾長　株式会社安川電機 代表取締役会長　津田 純嗣 氏
16:30 オリエンテーション
17:00 講演
株式会社トライアルホールディングス グループCIO　西川 晋二 氏
18:00 ワークショップ
株式会社野村総合研究所 主席研究員　藤野 直明 氏
株式会社野村総合研究所 上級コンサルタント　梶野 真弘 氏
20:00 交流会/夕食
22:00 終了

12/4(土)
9:00 開始
ワークショップ、発表
12:00 修了式/昼食
(講評、質疑応答)
13:00 解散

九州デジタル経営塾 in 鹿児島

◆講演内容

講演　流通小売企業のデジタル・トランスフォーメーション挑戦事例

株式会社 トライアルホールディングス　グループCIO　西川　晋二 氏

米国Walmartから学ぶ事を起点として、小売企業としてのデータ活用による、改善、改革の挑戦的課題に取り組んでおります。DX、デジタルトランスフォーメーションの事例として、ご紹介したく存じます。

【プロフィール】
1982年3月　九州芸術工科大学(現九州大学)卒業。1982年4月　松下電器貿易(株)(現Panasonic)入社。1987年1月　米国Panasonic出向。1993年4月　Panasonic帰任。1996年9月　トレーサーテクノロジージャパン(株)代表取締役。2002年9月　トライアルカンパニー入社、ティーアールイー社長、トライアルカンパニー　CIO　等々を経て現在に至る。

ワークショップ　成長戦略実現のためのDX

●自社の成長戦略の実現を目的としてDXの可能性を実感していただく場をご用意致しました。
●本デジタル経営塾では、DXに関する動向を認知し、感じ取り、自ら悩み考え抜き、さらに経営者同士で相談に乗るという「短期集中型のアクティブラーニング方式」で実施致します。「DXを活用した成長戦略」を真剣に考え、講師・経営者同士で真剣に議論を行うことにより「DXを活用した成長戦略の可能性」を理解できると考えております。
●もちろん、DXを自社の経営戦略に取り込んだDX戦略の実現には、試行錯誤(テスト&ラーン)を繰り返す活動が必要です。この試行錯誤の結果、"事業戦略へデジタルを活かす知恵、他社が真似できない知恵"が獲得できます。

株式会社 野村総合研究所　主席研究員　藤野　直明 氏

【プロフィール】　産業ITイノベーション事業本部　兼　コンサルティング事業本部
政策シンクタンク部門の後、コンサルティング部門でSCM革新の領域を担当。最近は業種横断でのDXに関する調査研究・コンサルティング活動に従事。早稲田大学理工学術院(大学院情報生産システム研究科)客員教授/公益社団法人 日本経営工学会 副会長/2020年代総合物流施策大綱検討会 構成員/一般社団法人日本OR学会フェロー /オペレーションズ・マネジメント&戦略学会理事/ロボット革命・産業IoTイニシアティブ協議会(第4次産業革命担当)情報 マーケティングチーム・リーダー /日本小売業協会CIO研究会ステアリングコミティコーディネーター /JR東日本モビリティ変革推進コンソーシアム・ステアリング委員会委員/一般社団法人システムイノベーションセンター実行委員会委員
<学歴>早稲田大学 理工学部 物理学科卒業(理論物理学専攻)/東京大学大学院 工学系研究科 博士課程先端学際工学 科学技術社会相関大部門 情報技術社会相関専攻　修了

株式会社 野村総合研究所　上級コンサルタント　梶野　真弘 氏

【プロフィール】　コンサルティング事業本部
民間企業への伴走型企業改革のコンサルティング(新規事業育成・業務改革・経営指標設計・企業統合等PMO支援業務など)、産業振興に関する調査研究・コンサルティングに従事。製造業工場には中小企業から大企業を含め、各種業種、300箇所以上訪問。
<学歴>東北大学大学院 工学研究科博士課程前期 原子核工学(材料工学専攻)　修了

お申込み

下記URL、QRコードの申込フォームよりお申し込みください。
https://forms.gle/niJpWHQNe3GM2NfX9
※本参加の申込書の情報は、本セミナーおよび九州オープンイノベーションセンターの運営にかかる目的のみに使用させていただきます。

申込締切

2021年11月30日(火曜日) 17時
※応募者多数の場合は、お断りすることがあります。

お問い合わせ

KOIC:KYUSHU OPEN INNOVATION CENTER
一般財団法人九州オープンイノベーションセンター
イノベーション推進部 (岩重、中村、木原)
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東二丁目13番24号
TEL 092-411-7354 FAX 092-472-6609
URL:https://www.koic.or.jp E-mail:info@koic.or.jp

備考

●お申込みを確認後、ご請求書をお送り致します。必ず、事前振り込みをお願い致します。なお、当日までにキャンセル等をされた場合は、該当する所定の費用をご負担いただきます。

(2)ネクストリーダー養成塾

中小企業や団体の経営幹部及びネクストリーダー層を対象として、「DX とオープンイノベーション」をテーマに経団連が提唱する「起承転結」人材モデルを育成するための「九州ネクストリーダー塾」を開催した。

具体的には、グローバル化・デジタル化が進む中での今後の経営や新事業の構想力、オープンイノベーションのあり方や実践事例を習得するとともに、ネクストリーダーに必要なスキルやツール編としてデータ分析とＡＩに関する基礎についても学習した。今年度については､全てオンラインでの開催とし、計１３回実施した。

参加者へのアンケート調査の結果では、総合評価として「非常に満足」、「満足」との回答者は、第１回が 94%、第２回が 70%、第３回が 75%、第４回が 88%となり、概ね良好な結果が得られた。コメントの中に「グループディスカッションで異なる意見を聞くことができ良かった。」、「具体的な事例が多く良かった。」との良好な意見がある一方で、「時間が足りなかった。」などの意見もあり、来年度へ向けた課題の発見にも繋がった。

回	開催日	内　　容
第1回	7月3日(土) 7月6日(火) 7月13日(火)	○ビジネスモデル編①　マインドチェンジ・コトづくり 「先の見えない不確実な環境下での新たな事業創造」 参加者合計：延べ181名
第2回	8月5日(木) 8月25日(水)	○ビジネスモデル編②　デザイン思考・デザインストラテジー 「ネクストリーダーに必要なクリエイティビティ」 参加者合計：延べ114名
第3回	8月30日(月) 9月9日(木) 9月27日(月) 10月6日(水)	○リーダーに必要な能力・スキル編　データ分析の基礎 「事業成長を実現するデータサイエンス」 参加者合計：延べ380名
第4回	11月24日(水) 12月1日(水) 12月8日(水) 12月15日(水)	○ツール編　ＡＩの基礎 「ＡＩを活用したビジネスモデルの創出」 参加者合計：延べ291名

第１回　九州ネクストリーダー塾

◆ 講師の紹介

九州大学 大学院 経済学研究院 産業マネジメント部門　教授　高田 仁 氏

【専門分野】産学連携マネジメント、技術移転、技術経営（ＭＯＴ）、アントレプレナーシップ
【プロフィール】
九州大学工学部卒業後、大手メーカーに勤務。九州大学大学院工学研究科修士課程修了、コンサルタント会社にて学術研究都市やサイエンスパークなど地域計画の立案に従事。
1999年から2002年まで(株)先端科学技術インキュベーションセンター（CASTI、現東大TLO）取締役副社長兼COO。
2003年に九州大学ビジネス・スクール助教授。同年10月から2010年まで九州大学知的財産本部技術移転グループリーダーを兼務。2005年から2010年まで総長特別補佐。2007年九州大学ビジネス・スクール准教授。また、2009年から翌年まで米国MIT（マサチューセッツ工科大学）客員研究員。2010年より九州大学ロバート・ファン／アントレプレナーシップ・センター兼務。2014年九州大学ビジネス・スクール教授。2015年4月～2017年3月産業マネジメント専攻長。

参加対象者

- 主に若手、リーダー、中堅社員、次代を担うネクストリーダー、経営幹部など
- ＤＸを活かして新しい事業を立ち上げたい方
- ＤＸ推進担当になったものの進め方がわからない方
- なるべく第１回から第４回まで参加可能な方で、特に第１回の１日目から３日目まで必ず参加できる方

お申込み

下記ＵＲＬ、ＱＲコードの申込フォームよりお申し込みください。

https://forms.gle/acMF9HLNCGT7YL3B8

※本参加の申込書の情報は、本セミナーおよび九州オープンイノベーションセンターの運営にかかる目的のみに使用させていただきます。

申込締切

６月２９日（火曜日）１７時　参加費無料

お問い合わせ

KOIC:KYUSHU OPEN INNOVATION CENTER
一般財団法人 九州オープンイノベーションセンター
イノベーション推進部（木原、中村）
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東二丁目 13 番 24 号
TEL 092-411-7354 FAX 092-472-6609
URL:https://www.koic.or.jp E-mail:info@koic.or.jp

備　考

・オンライン開催はインターネットを通じ、Zoomにて行います。
・ご参加に当たっては、登録後に送られてくる参加URLが必要です。
・後日のアーカイブ配信はありませんので、ご了承ください。
・第２回以降の参加募集は後日行います。（各回にて参加募集を実施）

第2回　九州ネクストリーダー塾

◆第１日目の講師

九州大学 大学院 芸術工学研究院 デザインストラテジー部門　教授　平井 康之 氏

【専門分野】インクルーシブデザイン、デザイン思考、オフィスデザイン、プロダクトデザイン、インテリアデザイン
【プロフィール】
博士（芸術工学）、1983年京都市立芸術大学卒、1991年英国王立芸術大学院大学（Royal College of Art）修士課程修了（Mphil.）、コクヨ株式会社、IDEOを経て、2000年九州芸術工科大学着任。デザイナーとしてオフィスデザインや商品開発に携わる。ドイツRed Dot賞、グッドデザイン賞、キッズデザイン賞など受賞多数。2003年よりソーシャルイノベーションのアプローチであるインクルーシブデザインをベースに活動を展開。
さらに、IDEOでの経験からデザイン思考にも取り組んでいる。

撮影：川本聖哉

◆第２日目の講師

九州大学 大学院 芸術工学研究院 デザインストラテジー部門　助教　稲村 徳州 氏

【専門分野】デザインエンジニアリング、イノベーションプロセス、ポスト人間中心のデザイン
【プロフィール】
2012年、ロイヤル・カレッジ・オブ・アート大学院大学スクールオブデザイン、インペリアル・カレッジ・ロンドン工学部イノベーションデザインエンジニアリング科・ジョイントダブルマスター・修士。
オークランド大学バイオエンジニアリングインスティテュート・プロジェクトエンジニアなどを経て、2017年より現職。学際的なアプローチからイノベーションを起こす仕組みの研究、国際的な連携を通じて、サステナブルな価値を生み出す教育・研究プロジェクトに注力している。
鹿児島県薩摩川内市と連携しサーキュラー都市の拠点Satsuma Future Commonsを立ち上げ、実践の場として研究を推進中。

参加対象者

- 主に若手、リーダー、中堅社員、次代を担うネクストリーダー、経営幹部など
- ＤＸを活かして新しい事業を立ち上げたい方
- ＤＸ推進担当になったものの進め方がわからない方
- １日目及び２日目の両日とも参加できる方

お申込み

下記ＵＲＬ、ＱＲコードの申込フォームよりお申し込みください。

https://forms.gle/w95mLD9tMeqNhsXa7

※本参加の申込書の情報は、本セミナーおよび九州オープンイノベーションセンターの運営にかかる目的のみに使用させていただきます。

申込締切

７月３０日（金曜日）１７時　参加費無料

第３回　九州ネクストリーダー塾

～DXとオープンイノベーション～
【参加者募集：参加費無料】

はじめに

- 九州オープンイノベーションセンターでは九州ネクストリーダー塾をオンライン開講します。今年度は「ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）とオープンイノベーション」をテーマに全４回シリーズで開催します。

必要性

- 今日、世界の産業や社会のあり方は大きく変わろうとしており、新型コロナの感染拡大に伴い、その勢いは一気に加速しようとしています。第四次産業革命と呼ばれるＡＩ・ＩｏＴ・ビッグデータ・５Ｇ等のデジタル技術の革新やグローバル化等の進行により、新たな付加価値や製品・サービスが生まれ、企業の販売方法もモノ売りから、サービスと連動するソリューションの形へ移行しています。
- また、シェアリングビジネス、データエコノミー、カスタマイゼーションなど新たなビジネスモデルが次々と生まれています。
- このような経済社会、生活、あるいは需要と供給構造の変革に対応するには、変革の緊急性を認識し、グローバルな視点で、デジタルの価値を理解し、属する組織の上司や部下に伝え、関係者と連携し、巻き込んでいく発信力と実行力を持った人材の育成が急務になっています。

目　的

- 日本が直面する経済社会の課題や属する組織等の課題を正しく認識して、課題を解決する能力（発想力・判断力・実行力・管理能力・向上力・知見等）を持ったネクストリーダーを育成します。
- 置かれている現状を変革（トランスフォーメーション）しようとする意思を持ったネクストリーダーを育成します。

第３回カリキュラム（オンライン開催）

回	内　容	講座タイトル	講　師		開催日時	講座内容
第３回	リーダーに必要な能力・スキル編 データ分析の基礎	事業成長を実現するデータサイエンス	九州大学客員准教授/㈱D4cアカデミー取締役社長兼学長/㈱データフォーシーズ執行役員 和田 陽一郎 氏	１日目	８月３０日(月) 17時30分から 19時30分	【主催者挨拶】 九州オープンイノベーションセンター 【講座】 リーダーのためのデータサイエンス概要　～DS基礎編～
			NOB DATA㈱代表取締役社長 大城 信晃 氏	２日目	９月９日(木) 17時30分から 19時30分	【講座】 データサイエンスの社内プロジェクト推進　～プロジェクト運用編～
			㈱グッデイ代表取締役社長 柳瀬 隆志 氏	３日目	９月２７日(月) 17時30分から 19時30分	【講座】 データを駆使したＵＸの達成　～経営実践編～
			九州大学名誉教授/㈱ＤＸパートナーズシニアパートナー兼代表取締役 村上　和彰 氏	４日目	１０月６日(水) 17時30分から 19時30分	【講座】 データ主義とアンチデータ主義　～両刀使いのＤＸ経営戦略の極意～

※セミナーにはグループワーク・個人ワーク・課題などが含まれます。

第４回　九州ネクストリーダー塾

～DXとオープンイノベーション～
【参加者募集：参加費無料】

はじめに

- 九州オープンイノベーションセンターでは九州ネクストリーダー塾をオンライン開講します。今年度は「ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）とオープンイノベーション」をテーマに全４回シリーズで開催します。

必要性

- 今日、世界の産業や社会のあり方は大きく変わろうとしており、新型コロナの感染拡大に伴い、その勢いは一気に加速しようとしています。第四次産業革命と呼ばれるＡＩ・ＩｏＴ・ビッグデータ・５Ｇ等のデジタル技術の革新やグローバル化等の進行により、新たな付加価値や製品・サービスが生まれ、企業の販売方法もモノ売りから、サービスと連動するソリューションの形へ移行しています。
- また、シェアリングビジネス、データエコノミー、カスタマイゼーションなど新たなビジネスモデルが次々と生まれています。
- このような経済社会、生活、あるいは需要と供給構造の変革に対応するには、変革の緊急性を認識し、グローバルな視点で、デジタルの価値を理解し、属する組織の上司や部下に伝え、関係者と連携し、巻き込んでいく発信力と実行力を持った人材の育成が急務になっています。

目　的

- 日本が直面する経済社会の課題や属する組織等の課題を正しく認識して、課題を解決する能力（発想力・判断力・実行力・管理能力・向上力・知見等）を持ったネクストリーダーを育成します。
- 置かれている現状を変革（トランスフォーメーション）しようとする意思を持ったネクストリーダーを育成します。

第４回カリキュラム（オンライン開催）

回	内　容	講座タイトル	講　師		開催日時	講座内容
第４回	ツール編 ＡＩの基礎	ＡＩを活用したビジネスモデルの創出	福博印刷㈱CRM推進部データビジネスソリューションチーム係長 最所 真一 氏	１日目	１１月２４日(水) 18時30分から 20時30分	【主催者挨拶】 九州オープンイノベーションセンター 【講座】 ＡＩとはなにか？ ビジネスに活用するために自社でチェックしておくべきポイントと導入までのステップ
			㈱LIGHTz代表取締役社長 乙部 信吾 氏	２日目	１２月１日（水） 18時30分から 20時30分	【講座】 ＡＩ技術の基礎 ビジネス活用までの乗り越えるべきハードルと解決方法
			㈱SIGNATE代表取締役社長 CEO/CDO 齊藤 秀 氏	３日目	１２月８日（水） 18時30分から 20時30分	【講座】 ＡＩ人材の育成 ＡＩ人材の必要性と活用するにあたっての自社内のチェックすべきポイント
			㈱スカイディスク SaaS事業部 川野 義広 氏	４日目	１２月１５日(水) 18時30分から 20時30分	【講座】 成功・失敗事例から学ぶ 製造業におけるＡＩ導入のためのデータ整理と分析ノウハウ

(3)若手研究者海外研究交流支援事業

九州の若手研究者の国際的な感覚や、海外との人的ネットワーク構築による九州の研究分野のグローバル化を図るため、大学・工業高等専門学校の工学系・理学系の若手研究者の長期・短期留学および国際研究集会参加に対し、外部委員で構成する選考委員会で選考の結果、３件の研究件名を採択した。

なお、新型コロナ感染拡大に伴う海外渡航の自粛を受けて、短期国外留学については、助成猶予中であり、国際研究集会参加に対しては、オンラインでの参加となり、国際研究集会の参加費用を助成した。

区分	研　究　件　名	渡航先	渡航期間	備考
短期国外留学	Naイオン二次電池正極材料の合成および特性評価 長崎大学大学院工学研究科　博士課程後期２年	ポールサバティエ大学（フランス）	３か月	助成猶予中
国際研究集会	比抵抗及び弾性波速度による浸透率及び水飽和度の推定：実験及びデジタル亀裂シミュレーションによる検討 九州大学大学院工学研究院　博士課程後期３年	レイキャビク（アイスランド）		オンライン参加による参加費助成
国際研究集会	パルス幅変調方式のキャリア波に同期した信号電圧重畳方式による埋込磁石同期機の回転子位置誤差の一考察 長崎大学工学部工学科　助教	慶州（韓国）		オンライン参加による参加費助成

(4)女性活躍促進事業

女性管理職の相互のネットワークを形成し、女性活躍の現状と課題の共有を図るとともに女性活躍を推進する女性管理職の自主的な活動組織である「WE－NET 福岡」は財政的・政策的な自立化を目指し、独立したため、契約関係等をすべて移管した。

５．情報提供事業

(1)WEB サイト等による情報発信

ホームページ（スライダーでのイベント案内、POP アップ広告）、SEO 対策、メルマガ、Facebook や YouTube 等の SNS を利用し、KOIC の事業、研究会での調査結果、関連イベント情報やニュース、セミナーの動画配信等情報提供を行った。

令和４年３月末

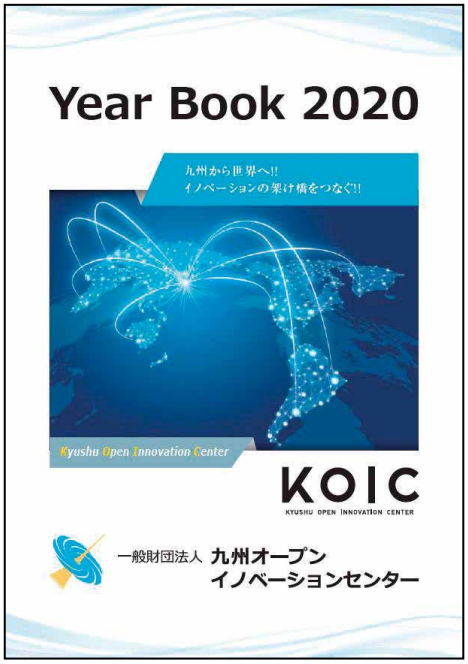
主な内容	HP 更新：１１６回、メルマガ配信：３４回、Facebook 配信：３１回、 Facebook 広告を３回実施　　他

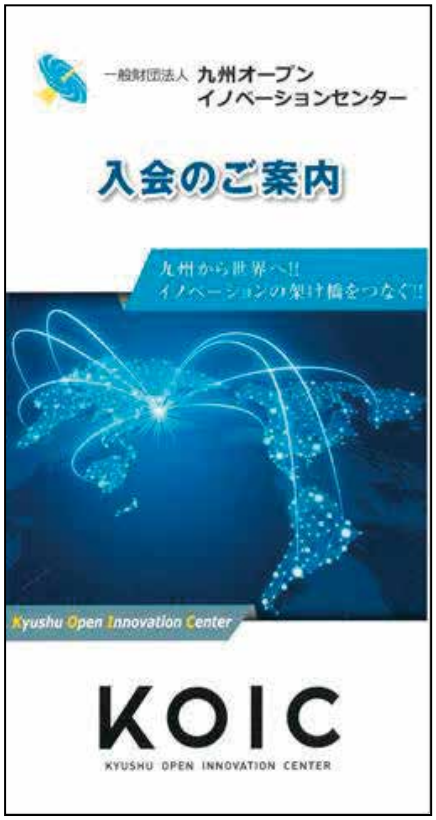
(2)活字媒体による情報発信

KOIC の令和２年度活動内容と成果、研究会等での調査結果等をまとめた KOIC 年報（Year Book2020）を（400 部）作成し（令和 3 年 6 月発行）、役員、賛助会員、訪問企業等へ配布を行った。

九州域内の銀行（福岡銀行、西日本シティ銀行、宮崎銀行）及び域外支援機関（東北活性化センター）の情報誌へ KOIC 事業の紹介記事を掲載いただいた。

また、新たにリーフレット（入会のご案内）を作成し、賛助会員獲得活動に使用した。





６．収益事業

(1)成功報酬型コーディネータ事業

成功報酬型コーディネータが多方面から企業情報を集め、事業課題を抱える中小企業に出向き、経営層と面談して、合意の上で、事業計画の策定から知財戦略・販路の探索とマッチングまでを伴走型で支援するコーディネータ事業として、平成 27 年度から開始している。

具体的には、コーディネータ（KOIC）が企業に対し、定期的なコンサルタント、知財の取得と売却、試作の実施、製品開発等による売上利益の発生等、コーディネート活動が成功した場合、コーディネータが報酬を受け取る成功報酬契約を締結する事業であり、成功報酬型コーディネータと経営層との信頼関係と緊張感を備えた実践的かつ継続的なコーディネート事業である。

本年度はコロナ禍という制約の中１５８件のコーディネート活動を行い、１２件（内新規２件）の契約により、812 万円の成功報酬収入を達成した。

なお、成功報酬型コーディネータは KOIC が受け取った成功報酬額の 30%を受け取る規定で運用している。

（年度別成功報酬額）

	令和２年度	令和３年度
成功報酬額（千円）	４，０６４	８，１２５

① 活動実績

区　　分	令和２年度	令和３年度	内　　容
新規企業発掘	３８	２５	優位な技術を有し、新製品開発・市場開拓を目指す中小企業の調査・発掘等
契約前プレ支援事業	１１	４０	要素技術・コア技術の発掘 事業化の課題等の抽出と解決方法等の提示 知財の有効活用等の提示等
契約後支援事業	１１１	９３	事業化計画の検討 知財活用先、試作先、共同開発相手、販売先等の探索と交渉 成功報酬契約項目の実践等
合計	１６０	１５８	

② 成功報酬型の契約と報酬実績

●令和３年度契約分　２件　（新規契約案件）

コロナ禍でも積極的な活動を実施し、２件の新規契約を行った。

企　業	支援事業	支援内容	成功報酬（一部）
A社	資金獲得支援	資金（補助金等）獲得のための申請に係る支援	・着手金 10 万円×2 か月 ・獲得資金の 10%
B 社	資金獲得支援	資金（補助金等）獲得のための申請に係る支援	・着手金 10 万円×2 か月 ・獲得資金の 10%

●平成２７年度～令和２年度契約分　10 件　（継続契約案件）

契約を継続している９件は月１～２回訪問し、WEB 等で相談やアドバイスを行っており、成功報酬が計上されている。１件は具体的な支援内容が発生した時に契約更新するため一旦停止中。

企　業	支援事業	支援内容	成功報酬
C社	石灰開発品販路開拓支援	・製品化支援 ・製品販売	・試作品開発 15 万円/件 ・当該製品の利益の 10%
D 社	壁面調査用ロボットの開発支援	・試作品の開発 ・特許等の知財対応 ・量産体制の構築 ・製品販売 ・ﾌﾞﾗﾝﾃﾞｨﾝｸﾞﾏｯﾁﾝｸﾞ支援	・試作品完成時 50 万円 ・特許登録時 5 万円/件 ・量産ライン完成時 50 万円 ・当該製品の利益の 20% ・マッチング契約 50 万円/件
E 社	新規事業に係る支援 医療機器の販売支援 事業購入	・開発コンサル ・顧客開拓 ・許認可取得支援	・開発コンサル料 50 万円/年 ・当該製品のロイヤリティの 10% ・事業買収金額の 10% ・医療許認可申請 5 万円/回
F 社	マイクロカプセル技術の事業化支援	・原価計算 ・製造技術管理 ・試作費用計算	・試作事業に関わる売上の 20% ・当該事業のロイヤリティの 20%
G 社	知財戦略 新規事業化支援	・知財戦略の立案、実行	・10 万円/月
H 社	ハカリ技術の事業化支援	・販路開拓支援 ・知財戦略支援	・開発製品の利益の 15% ・特許出願３万円/件
I 社	事業化支援 資金獲得支援	・製品開発支援 ・事業化ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ ・新事業創出 ・資金獲得申請支援	・10 万円/月 ・獲得資金の 5%
J 社	事業化支援	・製品開発支援 ・事業化ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ ・新事業創出	・10 万円/月（４か月） ・具体的支援内容発生まで一旦停止中
K 社	産業廃棄物処理事業における技術導入支援	・新技術アドバイス ・知財戦略・管理	・30 万円/月（15 ヶ月）
L 社	共同研究開発・技術提携支援 事業有償譲渡	・資金提供契約支援 ・有償譲渡契約支援	・提供支援、提携料の 20% （１０万円/月（3 ヶ年）契約中）

(2) 産業技術事業化支援事業

当財団の非常勤コーディネータと協働して、九州の研究開発型企業に対し継続的にコンサルティング等を行い、製品開発、販売促進の支援を、製品開発、販売促進の支援を行った。報酬は昨年度までの支援による収入。

	令和２年度	令和３年度
報酬額（千円）	３５９	３２２

支援企業	内　　容
M 社	・ビジネスモデルの検討 ・マーケティング戦略の立案及び販売促進等事業化支援

産業クラスター関連資料

戦略産業の振興（2021 年度の K-RIP、HAMIQ 、SIIQ の事業概要）

●九州成長産業戦略を実現すべく、クリーン（環境・エネルギー）、ヘルスケア〈医療機器・サービス）及び全国の生産額国の約 3 割を占める半導体産業の新事業創出を支援するため、各推進組織（K-RIP、HAMIQ、SIIQ）における情報提供、研究会、マッチング、技術開発、販路拡大、海外展開等の新事業創出事業を支援した

● 2021 年度はコロナ禍の中にあって、総会やセミナー等のオンライン開催、海外ミッション派遣事業の中止又はオンライン商談会など試行錯誤を重ねながら実施した。

産業	環境・エネルギー	医療機器・サービス	IC・エレクトロニクス
推進組織	K-RIP 九州環境エネルギー産業推進機構	HAMIQ 九州ヘルスケア産業推進協議会	SIIQ 九州半導体・エレクトロニクスイノベーション協議会
体制 会員	・部長、部長 ・マネージャー 2 人 （ 外部資金で雇用） ・総数 277 うち有料会員 214	・部長、次長２人 ・マネージャー等３人 （ 外部資金で雇用） ・総数 173 うち有料会員 102	・部長、部長 ・マネージャー等３人 （ 外部資金で雇用） ・総数 240 うち有料会員 236
予算 （会費）	・会 費 :1,000 万円 ・外部資金:約 2,000 万円 ・事業費 :400 万円	・会 費 :360 万円 ・外部資金:約 2,020 万円 ・事業費 :550 万円	・会 費 :1,550 万円 ・外部資金:約 1,260 万円 ・事業費 :約 300 万円
会費事業	総会・講演会 エコ塾（年5回） 令和環境エネルギーイノベーション大学(1回)	総会・幹事会・講演会 ヘルスケア産業づくり貢献大賞	総会・講演会 研究奨励事業（表彰・奨励金） 会員交流会
外部資金事業	① 海外展開の支援 ・台湾、ベトナム、インドネシアでの現地市場調査及びオンライン商談会等 ② 廃棄物循環プロセス見える化による競争力強化とCO2削減モデルの実証支援等 ・九州台湾循環経済事業化研究会等 ③ 中核企業の支援 ・台湾: セミナー1回、商談21件、業務提携契約１件 ・ベトナム:セミナー8回、商談37件 ・インドネシア:支援(面談) 9社	① 先進医療機器の情報の発信 ・機関誌ヘルスケアNEXT発刊 九州ヘルスケア最前線、九州医療機器産業支援グループ会合で発信 ②ヘルスケア産業の創出支援 ③医工連携による医療機器開発・部材開発の支援 ・医療機器製造業と医療現場のマッチング ・中核企業の販路開拓（学会の展示会）、協業企業とのマッチング	①ビジネスモデル実証予備軍掘 ・デジタル化に関するアンケート ・ヒアリング調査 ・デジタル化活用オンライン ワークショップの開催 ②事例整理・普及 ・ヒアリング調査による事例集 作成・ホームページにて公開 ・地域産業デジタル化セミナー の開催 ③ビジネスモデル実証支援 ・実証企業が取組むデジタル技術を活用したビジネスモデル伴走支援の実施

2021 年度の出来事（年表）

月	KOIC	九州	日本/世界
4		熊本地震５年	新型コロナの高齢者向け優先接種開始。（日本）
		「福岡バイオイノベーションセンター」を久留米市に開設	ホンダ、2030年に国内で販売する全ての四輪車を、電気自動車（EV）やハイブリッド車（HV）などへ切り替えると発表（日本）
		「アミュプラザくまもと」オープン	緊急事態宣言が、東京、大阪、京都、兵庫の4都府県で発令された。（日本）
			台湾東部で特急列車脱線（世界）
			米、アフガンから撤収開始（世界）
5	第２回九州異業種交流会 ［令和２年度延期分］ 『訪日外国人を日本と日本人のファン（リピーター）にするためには』	有田陶器市2年連続、中止	新型コロナ、緊急事態延長（日本）
	IoTコミュニティ活動報告会	SSK（佐世保重工業）、106億円赤字　新造船休止で79億円減損	経団連は、中西宏明会長が任期途中で辞任。後任に住友化学の十倉雅和会長（70）が就任（日本）
	第一回コーディネータ会議		デジタル庁新設を柱とするデジタル改革関連6法が可決、成立。デジタル庁は9月1日に発足。（日本）
			中国が、無人火星探査機「天問１号」の火星着陸に成功。（世界）
6	理事会：決算、事業報告	大火砕流３０年、雲仙・普賢岳噴火	先進7カ国（G7）財務相会議、国際課税ルールについて合意。法人税の最低税率を15％以上を明記。（日本）
	評議会：決算、事業報告	熊本市電の運賃収入6億円減、利用客4割減673万人	９都道府県、緊急事態解除＝新型コロナ（日本）
	第1回データサイエンティスト講座	HTBの売上高27％減　3月中間連結　入場者数はワースト2位	米製薬企業バイオジェンとエーザイが共同開発したアルツハイマー病治療薬「アデュカヌマブ」を条件付きで承認。アルツハイマー病の薬の承認は世界で初。（世界）
	第一回事業推進委員会（書面）		イスラエルで極右政党ヤミナのナフタリ・ベネット党首を首相とする新政が発足、１２年ぶりに政権が交代。（世界）
			米ロ首脳が初会談（世界）
7	第1回ネクストリーダー塾　①	国連教育科学文化機関（ユネスコ）は、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島」（鹿児島、沖縄両県）を世界自然遺産に登録することを決めた。	静岡県熱海市で大規模な土石流が発生した。住宅など十数棟が流され、犠牲者は20人を超えた。（日本）
	第1回ネクストリーダー塾　②	東九州道 志布志IC～鹿屋串良JCT、19.2kmが7月17日開通。	新型コロナウイルスの「まん延防止等重点措置」が適用されている東京都に４度目の緊急事態宣言を発令（日本）
	第１回　九州経済を考える懇談会	令和2年度ふるさと納税受入額で都城市が日本一	新型コロナウイルスの影響で、1年延期された東京五輪が開幕（世界）
	九州デジタル経営塾　キックオフセミナー（福岡）	福岡・中間市で保育園児が送迎バスで熱中症死	中国共産党は、党創設１００年の祝賀式典を北京の天安門広場で開いた。（世界）
	第1回ネクストリーダー塾　③	九重町で地熱発電で水素製造開始　国内初の実証プラント	カリブ海の島国ハイチのジョブネル・モイーズ大統領が暗殺された。（世界）
	KICC　総会　特別講演	長崎大のBSL（バイオセーフティーレベル）4施設、完成	中国共産党は、党創設１００年の祝賀式典を北京の天安門広場で開いた。（世界）
		「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島」鹿児島、沖縄両県を世界自然遺産に登録	
8	第1回　SDGs経営実践研究会	湖池屋九州阿蘇工場が稼働	緊急事態宣言を発令。緊急事態宣言は6都府県に拡大。新型コロナウイルスの国内感染者が、累計で100万人を超えた。（日本）
	第2回ネクストリーダー塾　①	工藤会トップに福岡地裁が死刑判決	
	第2回ネクストリーダー塾　②	JR九州　特急自由席を値上げを決定。2022年４月より	第32回夏季オリンピック東京大会は、ほとんどの会場が無観客で開催。日本は過去最多となる58個のメダルを獲得（日本）
	第3回ネクストリーダー塾　①	九州中央道 全線開通	米軍のアフガンからの撤収が完了。（世界）
	第二回コーディネータ会議		みずほ銀行とみずほ信託銀行は、システム障害（日本）
			第16回夏季パラリンピック・東京大会は、無観客の東京・国立競技場で開会式（世界）
			新型コロナウイルスの世界の累計感染者数が２億人を突破。（世界）

2021 年度の出来事（年表）

月	KOIC	九州	日本/世界
9	第3回ネクストリーダー塾　②	「波佐見あちこち陶器まつり」分散開催	自動車運転処罰法違反（過失運転致死傷）罪に問われた旧通産省工業技術院元院長に対し、実刑判決（日本）
	第2回データサイエンティスト講座	大雨被災JR久大線が全面復旧	東京パラリンピックが閉会。日本は史上2番目に多い51個のメダルを獲得した。（日本）
	第3回ネクストリーダー塾　③		政府は東京など19都道府県を対象に発令していた緊急事態宣言を延長。延長は3度目。（日本）
			米同時テロから２０年（世界）
			米国、英国、オーストラリアの３か国で、インド太平洋地域の安全保障協力の枠組み「ＡＵＫＵＳ（オーカス）」を創設すると表明。（世界）
			中国の不動産大手「中国恒大」が経営危機（世界）
			日本と米国、オーストラリア、インドの４か国の枠組みクアッド（Ｑｕａｄ）初の対面での首脳会談（世界）
10	第3回ネクストリーダー塾　④		19都道府県に発出していた緊急事態宣言と8県のまん延防止等重点措置を全面解除。
	第2回　SDGs経営実践研究会	京セラ鹿児島国分工場　新工場２棟を建設	臨時国会で、自民党の岸田文雄総裁（64）が第100代首相に指名され、岸田内閣が発足。（日本）
	イスラエルイノベーションセミナー	みちびき初号機後継機打上げ	ノーベル物理学賞に、地球温暖化などの予測手法を確立した米プリンストン大の真鍋淑郎ら3氏が決定（日本）
	成果発表会、モノづくりフェア出展	TSMC・ソニー熊本に新工場建設　2024生産開始予定	米大リーグ選手会は、年間最優秀選手に投打の「二刀流」で活躍したエンゼルスの大谷翔平を選んだ。日本人選手初。（日本）
			原油価格７年ぶり１バレル当たり80ドル越え（世界）
			松山、日本で米ツアーＶ＝ＺＯＺＯ男子ゴルフ（日本）
			ノーベル平和賞にフィリピン、ロシアのジャーナリスト（世界）
			米製薬大手メルクは、新型コロナウイルス感染症を治療する経口薬（飲み薬）「モルヌピラビル」の緊急使用許可を申請。（世界）
			ＣＯＰ２６で石炭火力発電の段階的な削減努力などを盛り込んだ文書「グラスゴー合意」を採択。（世界）
11	九州・沖縄地区国立大学法人産学官連携関連センター長等会議	日機装株式会社に宮崎新工場　人口透析用血液回路　2024操業開始予定	国際宇宙ステーション（ISS）に約半年間滞在した星出彰彦ら4人が乗る米宇宙船クルードラゴンが、地球に帰還（日本）
	九州デジタル経営塾（大分）	MICE施設「出島メッセ長崎」が開業	第206特別国会で、岸田文雄首相が第101代首相に指名、第２次岸田内閣が発足。（日本）
	第4回ネクストリーダー塾　①		
	大阪ガス　技術ニーズ説明会		米大リーグ、エンゼルス大谷翔平選手（27）が、ア・リーグ最優秀選手（MVP）満票での受賞。（日本）
	九州異業種交流会 『イスラム教の正しい理解から考える多様性社会のビジネス』		オミクロン株、国内初確認（日本）
	第3回　SDGs経営実践研究会		米ＦＲＢ、量的緩和縮小の開始決定（世界）
	第三回コーディネータ会議		新変異株「オミクロン株」、世界で感染拡大（世界）

2021 年度の出来事（年表）

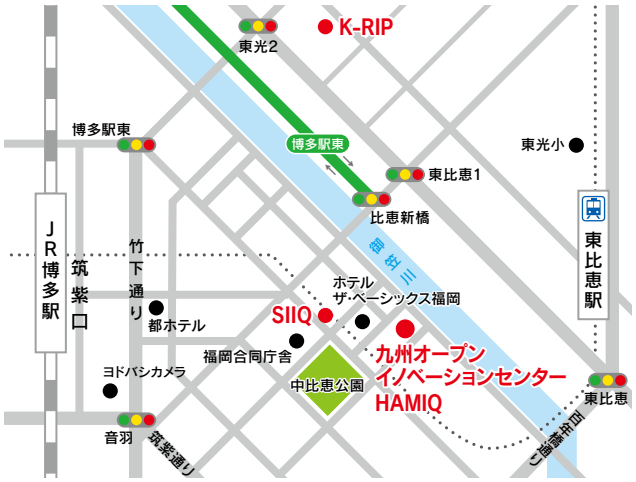
月	KOIC	九州	日本/世界
12	第4回ネクストリーダー塾　②		新型コロナウイルスワクチンの3回目となる追加接種が、国内各地で始まった。（日本）
	九州デジタル経営塾（鹿児島）	有明海のタイラギ漁、10季連続で休漁　漁業者協決定、成員確認できず	前沢友作ら３人が搭乗するロシアの宇宙船ソユーズが打ち上げ、日本の民間人がISSに滞在するのは初（日本）
	第4回ネクストリーダー塾　③	デジタル人材育成へ産学官新組織　九経連や九大など設立	トヨタ自動車は、走行時に二酸化炭素（CO2）を排出しない電気自動車（EV）の世界販売台数を2030年に350万台へ引き上げる目標。（日本）
	第4回ネクストリーダー塾　④	TOTO、ベトナム北部に水栓金具新工場建設へ	新型コロナウイルス感染症の飲み薬「モルヌピラビル」を「特例承認」に基づき正式に薬事承認（日本）
	九州オープンDXアカデミー 第１期「DXゼミルーム」開講 期間：令和3年12月～令和4年2月		アベノマスク、倉庫で山積み（日本）
	第21回九州・大学発ベンチャー・ ビジネスプランコンテスト		ドイツ新首相にオラフ・ショルツ氏、16年間首相を務めたメルケル氏は政界引退（世界）
	データサイエンティスト派遣実証事業 期間：令和3年12月～令和4年2月		欧州でコロナ感染が再拡大、イギリス、フランスでは1日10万人を超える感染者（世界）
1	瓜生会長、新年職員訓示	日向灘を震源とする地震の規模（マグニチュード＝M）は6.6の地震。津波は観測されなかった。	ガソリンや灯油などの燃料価格の上昇を抑えるため、初の高騰抑制策を発動。
	九州デジタル経営塾（宮崎）	天山リゾートが廃業	
		「内密出産」希望の女性が出産　熊本市・慈恵病院、	北朝鮮が弾道ミサイルとみられる飛翔体を発射。（日本）
		平戸市にKTXの新工場が完成　レーザー加工機など披露	漫画家の水島新司さんが死去。82歳。（日本）
			トンガで海底火山噴火＝近隣国で津波発生（世界）
			北朝鮮が1ヶ月で7回のミサイル発射実験（世界）
			トヨタが北米市場で販売台数1位に、90年ぶり快挙（世界）
2	第6回九州・大学発 ベンチャー振興会議	西九州新幹線9月23日開業を正式発表	石原慎太郎元衆院議員が死去した。89歳（日本）
	第2回　九州経済を考える懇談会	長崎県内の産学官組織「ながさき半導体ネットワーク」の設立	北京冬季五輪開幕　18日間　18個のメダル獲得（日本）
	九州オープンDXアカデミー　最終報告会	「熊本産」アサリ偽装か　熊本県、2ヵ月出荷停止	将棋の藤井聡太竜王（19）が、史上4人目の五冠を19歳6カ月の最年少で達成（日本）
	オープンイノベーションセミナー　（オンライン）		ロシア、ウクライナへの軍事侵攻（世界）
	データ利活用に向けた施策説明会＆相談会		新型コロナウイルス感染者の同居家族に求める自宅待機期間を見直し（日本）
	イスラエルイノベーション 視察WEBミッション、個別商談会		新型コロナ国内感染、累計５００万人超える（日本）
	取組発表会　SDGs経営実践研究会 （九州SDGs経営推進フォーラム総会・シンポジウム）		ヨーロッパで原発をクリーンエネルギーとして再推進する動き（世界）
	企画委員会		ロシア軍、ウクライナ侵攻（世界）
	第二回事業推進委員会		
			ロシアがウクライナに侵攻開始、開戦1週間でウクライナ難民が100万人超え（世界）
3	理事会　次年度予算、計画	HTB開業30周年	北京パラリンピック開幕　10日間　7個のメダル獲得（日本）
	評議会　次年度予算、計画	宮島醤油新社長に宮島治常務就任へ　唐津市、18年ぶり交代	宮城、福島で震度６強。東北新幹線が脱線。（日本）
	第四回コーディネータ会議		電力需給逼迫警報、発令（日本）
	中小食品製造業者のためのデジタル化セミナー＆マッチング相談会		ウクライナのゼレンスキー大統領は、日本の国会でオンライン演説（日本）
			第94回米アカデミー賞の国際長編映画賞に、「ドライブ・マイ・カー」が輝いた。（日本）
			7大会連続となるワールドカップ（W杯）カタール大会出場を決めた。（日本）
			ロシアによるウクライナ「軍事侵略」非難＝Ｇ７（世界）

KOIC
KYUSHU OPEN INNOVATION CENTER

一般財団法人
九州オープンイノベーションセンター

〒812-0013　福岡市博多区博多駅東2丁目13番24号

総　務　部	TEL 092-411-7391（代）	FAX 092-472-6609
技術振興部	TEL 092-411-7394	FAX 092-472-6688
イノベーション推進部	TEL 092-411-7354	FAX 092-472-6609
	URL https://www.koic.or.jp/	E-mail info@koic.or.jp



九州環境エネルギー産業推進機構（K-RIP）
Kyushu Renewable Energy and Environmental Industry Promotion Association

〒812-0008
福岡市博多区東光2丁目7番25号［㈱正興電機製作所 本社ビル 別館3階］
TEL 092-474-0042　FAX 092-985-0055
URL https://www.k-rip.gr.jp　E-mail info@k-rip.gr.jp

九州ヘルスケア産業推進協議会（HAMIQ）
The organization to promote the Health-Care And Medical device Industry in K(Q)yushu

〒812-0013
福岡市博多区博多駅東2丁目13番24号［（一財）九州オープンイノベーションセンター3階］
TEL 092-411-7450　FAX 092-472-6609
URL https://hamiq.koic.or.jp　E-mail hamiq.info@koic.or.jp

九州半導体・エレクトロニクスイノベーション協議会（SIIQ）
Kyushu Semiconductor & Electronics Technology Innovation Association

〒812-0013
福岡市博多区博多駅東2丁目15番19号［KS-T駅東ビル 302号］
TEL 092-473-6649　FAX 092-473-6488
URL https://www.siiq.jp　E-mail info@siiq.jp

賛助会員制度のご案内

当財団は、九州地域の産業技術振興事業等を円滑に推進するために、賛助会員制度を設けています。
活動趣旨にご賛同の方は、是非賛助会員にご入会いただきますようお願い申し上げます。

◎ 会 費
年会費 1口10万円(1口以上)

◎ 入会手続き
当面は、下記のホームページから「入会申込書」をダウンロードいただくか、または、センター事務局(092)411-7391にご連絡くだされば「入会申込書」をお送りいたします。

https://www.koic.or.jp/outline/application/